Color Profile Maker Pro

Version 9.1

操作説明書

ご注意
①本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
②本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。

はじめに

このたびは、Color Profile Maker Proをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

Color Profile Maker Proは、Print Serverに対応した、印刷シミュレーションツールです。

本書は、お使いのOS、Print Server、およびプリンターの基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に、記載しています。OS、Print Server、およびプリンターの機能や操作方法ついては、それぞれのマニュアルをお読みください。

本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。本ツールをご使用中に、操作でわからないことや不具合が生じたときに、読み直してご活用いただけます。

富士ゼロックス株式会社

Contents

本書の使い方

本書の構成

本書の構成は、以下のとおりです。

■お使いになる前に（P.7）

Color Profile Maker Proの概要と注意事項、動作環境、インストールの手順について説明しています。

■CMYKプロファイルの作成（P.13）

印刷物をターゲットとしてPrint Serverで印刷シミュレーションするための色変換パラメーターを作成する手順と作成に必要な準備、およびプリント時の設定について説明しています。

■Appendix（P.49）

Color Profile Maker Pro のアンインストール手順、測色ファイルコンバーター、およびエラーメッセージについて説明しています。

本書の表記

本文中では、説明する内容によって、以下のマークを使用しています。

補足　補足事項を記載しています。

　参照先を記載しています。

本文中では、以下の記号を使用しています。

記号	説明
「　」	フォルダー、ファイル、アプリケーション、CD/DVD、機能などの名称や入力文字などです。また、本書内にある参照先です。
［　］	コンピューター上のメニュー、コマンド、ウィンドウやダイアログボックスとそれらに表示されるタブ、ボタン、メニュー、項目などの名称です。
→	メニューの選択順序です。［XXX］→［XXX］のように記載しています。
＞	プリントオプションの表示順序です。［XXX］＞［XXX］のように記載しています。 参照　プリントオプションについては、『ユーザーズガイド運用編』の「4.1 ジョブを編集する（プリントオプション項目）」を参照してください。
〈　〉	キーボード上のキーです。
	フォルダーを表します。

本文中では、以下の文章表現を使用しています。

- 「XXX」は任意の文字を、「＊」は任意の数字です。
- OSがMac OS® Classic（8.＊、9.＊）とMac OS Xのクライアントコンピューターを「Macintoshクライアント」、OSがMicrosoft Windows＊＊のクライアントコンピューターを「Windowsクライアント」と記載しています。
- 特に注釈がない限り、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー、K：ブラック、R：レッド、G：グリーン、B：ブルーと記載しています。

本書では、PrintServer N01の画面で説明しています。その他のPrint Serverでは、画面が異なる場合があります。

本書では、一部を除いてMicrosoft® Windows® 7の画面で説明しています。ご使用のOSによっては、メニューや項目などの名称が異なる場合があります。

本書では、一部を除いてデフォルトの画面で説明しています。説明のために、デフォルトでない画面を使用している場合は、補足で明記しています。

本書に記載されている画面や本機のイラストは一例です。お使いの機種やソフトウエア、OS のバージョンによって異なることがあります。

本書の内容は、本書の制作時点のものです。本書に記載されている画面やイラスト、お問い合わせ先の窓口、ホームページのアドレスなどは、将来予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

お使いになる前に

Color Profile Maker Proの概要と注意事項、動作環境、インストールの手順について説明しています。

1.1 Color Profile Maker Proの概要

Color Profile Maker Proの概要について説明します。

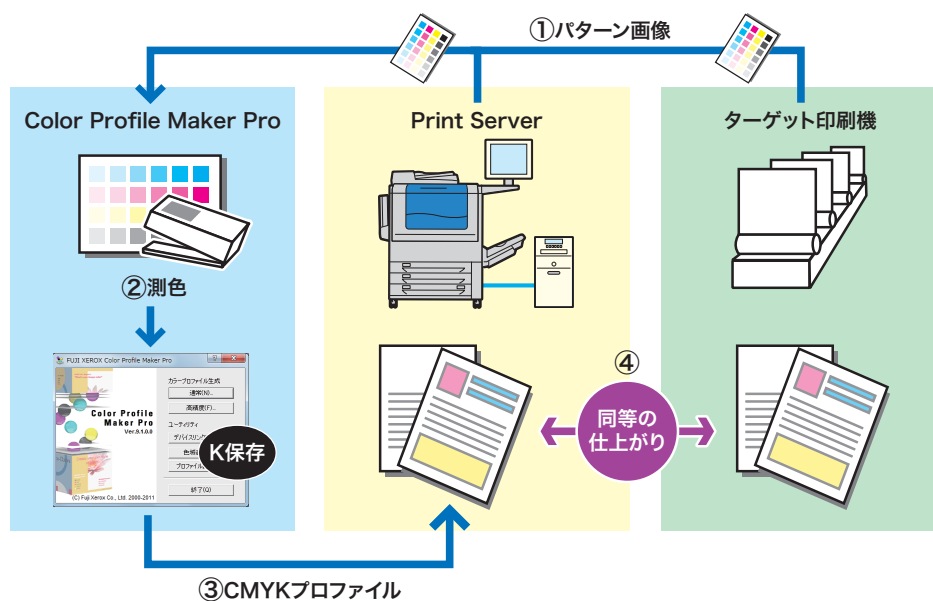
Color Profile Maker Proは、Print ServerのVersion 1.3以降に対応した、印刷シミュレーションツールです。Print Serverで動作する高精度な印刷シミュレーション機能を実現します。

1.1.1 CMYKプロファイル

印刷物をターゲットとしてPrint Serverで印刷シミュレーションするための、色変換パラメーター（CMYKプロファイル）を生成します。

生成には、ICC（International Color Consortium）プロファイルを使用することもできます。生成時には、K保存が設定できます。

補足　K保存とは、CMYKデータをプリントする場合に、色再現で重要な役割を持つK版の情報を保持する仕組みのことです。

◆印刷シミュレーションの流れ

1.1.2 注意事項

Color Profile Maker Proでの印刷シミュレーションは、印刷条件や測色条件によって、その性能が左右されます。Color Profile Maker Proの機能を十分に発揮させるため、以下の事項にご注意ください。

◆用紙とインキ

Color Profile Maker Proは、一般的な印刷用紙とプロセスインキによる印刷条件を想定しています。より良い印刷シミュレーション結果を得るために、着色紙や特色インキは、使用しないでください。

◆測色に使用するパターン画像セット

プリントされた各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。

◆測色

- 測色器のキャリブレーションや測色方法は、印刷シミュレーションに大きく影響を与えます。測色器の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご利用ください。
- 測色器の違いによる誤差を避けるため、同じ測色器と測色条件で、測色データを作成してください。
- 測色するときに印刷物の下に敷く台紙には、測色時の写りを抑えるため、測色対象と同じ用紙の白紙を５枚以上重ねてください。
- 印刷シミュレーションするファイルにICCプロファイルが埋め込まれている場合は、ファイルを保存したアプリケーションで、埋め込みを解除してください。ICCプロファイルが埋め込まれていると、ICCプロファイルの情報が優先され、Color Profile Maker Proでの印刷シミュレーションができない場合があります。
- CMYKパラメーターの作成には、処理に時間がかかる場合があります。Print Serverで処理を実行すると、その間はプリント動作が遅くなります。

◆i1iO、i1iSis、i1iSis XL、またはSpectroScanと、MeasureToolを使用する場合

- 測色方法については、ご使用の測色器、およびMeasureToolに付属の取扱説明書を参照してください。
- 書き出しフォーマットは、CIE-Labを選択してください。

補足
- 処理の完了を知らせるダイアログボックスで[Labの書き出し]を選択すると、CIE-Labで保存されます。
- ［ファイル］>［別名で保存］で保存した場合は、CIE-Labで保存されません。

- 測色時の設定は、以下のとおりです。
  - 観測光源：D50光源
  - 観測視野：２°
- フィルターを使用しないことをお勧めします。フィルターを使用しない場合、測色時のフィルターは、「No」を設定してください。

◆SpectroScanとSpectroChartを使用する場合

- 測色方法については、SpectroScan、およびSpectroChartに付属の取扱説明書を参照してください。
- 書き出しフォーマットは、CIE-Labを選択してください。
- 測色時の設定は、以下のとおりです。
  - 観測光源：D50光源
  - 観測視野：２°
  - 白色基準：Abs
- ファイルフォーマット形式は、「.it8」を選択してください。
- フィルターを使用しないことをお勧めします。フィルターを使用しない場合、測色時のフィルターは、「No」を設定してください。

◆i1とi1_Readerを使用する場合

- 測色するパターン画像セットに該当する測色パターンデータファイルを選択してください。
- 測色データ形式は、「三刺激値（CIELAB）」を選択してください。
- 測色方式は「ストリップ測色」、または「ダブルストリップ測色」をお勧めします。
- 測色するときは、i1 に付属しているスキャニングルーラー、または測定用バックアップボードを使用して、フリーハンドでの測色は行わないでください。フリーハンドで測色を行うと、正しい測色結果にならないことがあります。

- 測色器とソフトウエアの組み合わせについては、「2.2 測色データを作成する」（P.15）を参照してください。
- 測色方法については、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。

1.2 Color Profile Maker Proをインストールする

Color Profile Maker Proの動作環境とインストールする手順について説明します。

Windows XPにColor Profile Maker Proをインストールする場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントで行ってください。

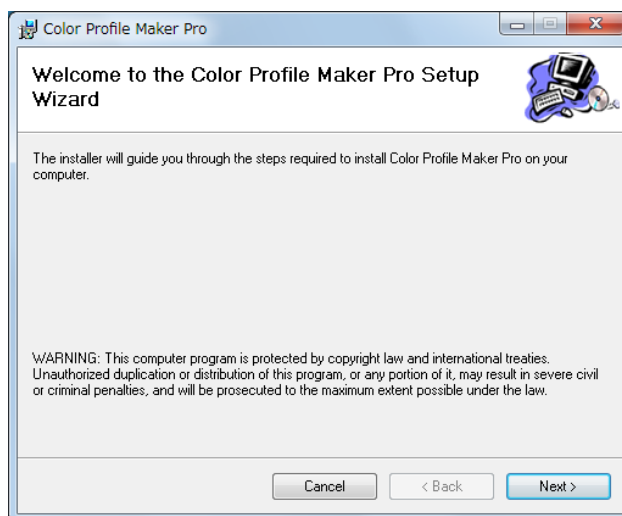
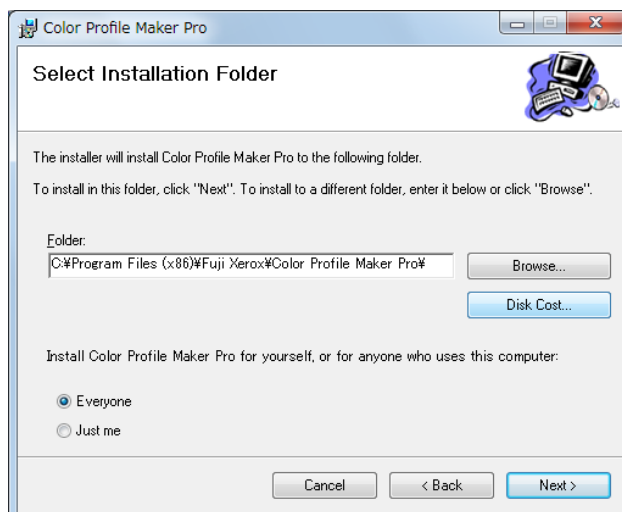
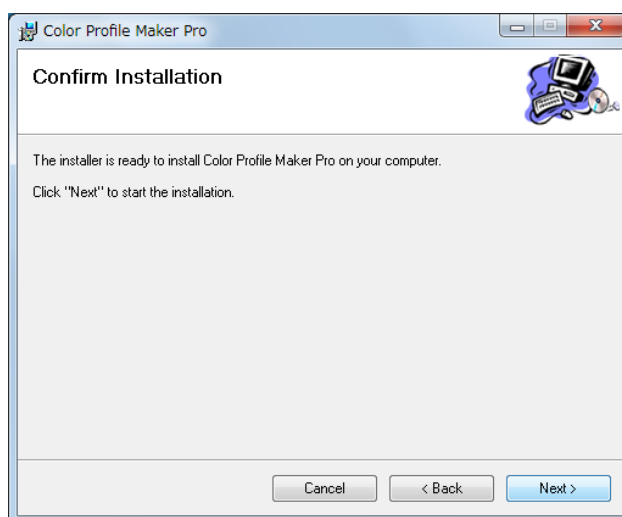
動作環境

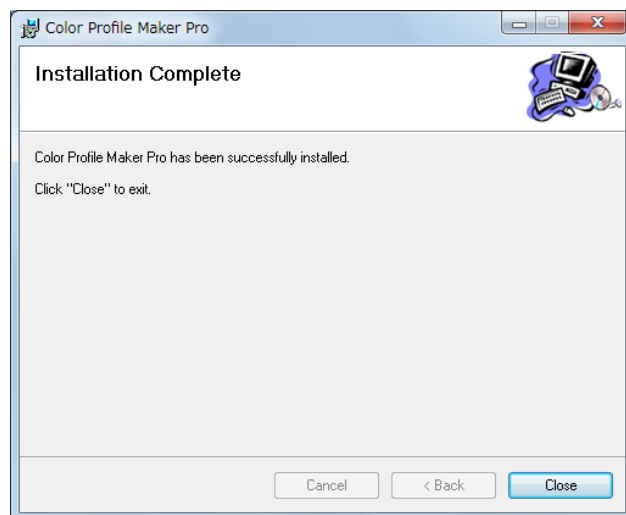
システムの条件は、以下のとおりです。

項目	性能
CPU	Intel Pentium III以上を推奨
対象OS	Windows XP、Windows Vista、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows 7
メモリー	128MB以上を推奨
ハードディスク容量	インストール時に50MB以上必要

インストール方法

操作手順

1. Print Server DVDをDVDドライブに挿入します。
2. Windowsの［スタート］→［コンピュータ］→［DVD RWドライブ］→［CPMP］を選択します。
3. ［Color Profile Maker Pro.msi］アイコンをダブルクリックします。
4. ［Next］をクリックします。

5. インストール先を選択し、[Next] をクリックします。

6. [Next] をクリックします。

インストールが開始されます。

7. ［Close］をクリックします。

Color Profile Maker Proのインストールは完了です。

使用するPrint Serverのバージョンが「Print Server Series」のVersion 1.＊、またはVersion 2.0では、インストール後に、以下の操作をしてください。(「PX＊＊＊Print Server」、または「Print Server Series」のVersion 3.0以降を使用している場合は、操作の必要はありません)

- DVDに入っているDLLファイル「FXOCACST4D.dll」をPrint Serverの以下のフォルダーに複製します。

  D:¥Fuji Xerox¥Print Server Series¥cpsi¥ColorProfile¥CMYKSimulation

CMYKプロファイルの作成

印刷物をターゲットとしてPrint Serverで印刷シミュレーションするための色変換パラメーターを作成する手順と作成に必要な準備、およびプリント時の設定について説明しています。

2.1 CMYKプロファイルについて

CMYKプロファイルの作成には、シミュレーションする印刷環境と、Print Serverからパターン画像データをプリントして測色した測色データを使用します。各測色データの代わりに、ICCプロファイルも使用できます。

測色には、以下の測色器と測色ソフトウエアの組み合わせを使用できます。

・X-Rite社の測色器「i1」と、測色ソフトウエア「i1_Reader」

・X-Rite社の測色器「i1iO」、「i1iSis」、「i1iSis XL」、または「SpectroScan」と、測色ソフトウエア「MeasureTool」

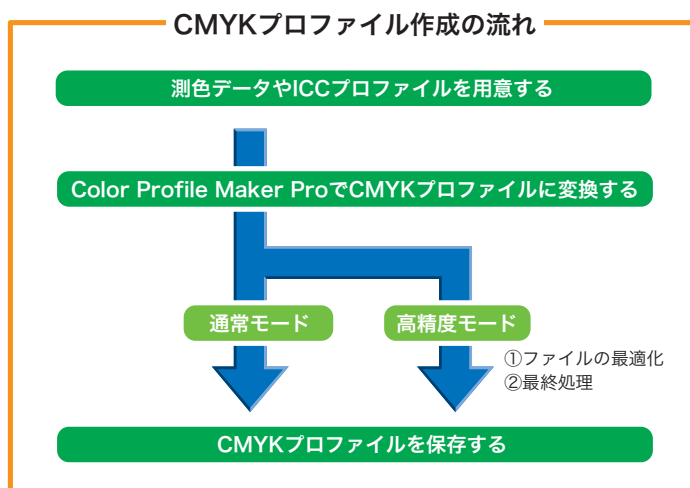
・X-Rite社の測色器「SpectroScan」と測色ソフトウエア「SpectroChart」、「SpectroChart Lite」

以降、SpectroChartと記載した場合は、SpectroChartとSpectroChart Liteの両方を表します。

X-Rite社の製品については、同製品の取扱説明書を参照してください。

◆デバイスリンクプロファイルをCMYKプロファイルに変換する方法

デバイスリンクICCプロファイルを作成できるアプリケーションで作成されたプロファイルが、Print Serverで使用できるCMYKプロファイルに変換できます。

変換方法には、通常モードと高精度モードがあります。

・測色データの作成方法については、「2.2 測色データを作成する」（P.15）を参照してください。
・通常モードについては、「2.3.1 通常モード」（P.18）を参照してください。
・高精度モードについては、「2.3.2 高精度モード」（P.31）を参照してください。

2.2　測色データを作成する

CMYK プロファイルを作成するときに必要となる印刷物の測色データ、およびプリンターの測色データを作成します。

- オフセット印刷の特性がICCプロファイルで提供されるような場合には、測色値の代わりにICCプロファイルを使用することもできます。また、より厳密な印刷シミュレーションを行う場合は、測色データの作成をお勧めします。
- 代用できるICCプロファイルは、CMYKのアウトプットプロファイルに対応しているものだけです。それ以外のICCプロファイルは、処理できません。
- SpectroChart には、測定パターンを作成する機能があるため、任意のパターン画像セットを測定することができます。

デバイスリンクICCプロファイルからCMYKプロファイルを作成する操作については、「2.5.1 デバイスリンクICCプロファイルの変換」（P.39）を参照してください。

■パターン画像セット

MeasureToolを使用して測色する場合は、パターン画像セットが用意されているフォルダーに、測色パターンファイルを用意しています。用意されているパターン画像セット以外を使用しても、プロファイルを作成することができます。ただし、主要な色を含み、パッチ数が多いパターン画像セット（IT8.7/3やECI2002など）をお勧めします。主要な色を含まなかったり、パッチ数が少ない場合、プロファイルの精度が低下したり、ターゲット調整機能を使用できないことがあります。

◆SpectroScanを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル	測色ソフトウエア	
			SpectroChart	MeasureTool
for SpectroScan and SpectroChart	CMYK_Gretag.eps	PrintServer_Series_1188.ptn	○	
for SpectroScan and MeasureTool	CPMP_Full_Lino_MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn		○

○：使用可能な組み合わせです。

SpectroChartを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。

Macintoshクライアント用

C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro¥GretagMacbeth SpectroChart Support¥Mac chart pattern file

Windowsクライアント用

C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro¥GretagMacbeth SpectroChart Support¥Win chart pattern file

SpectroChart は Mac OS X には対応していません。Mac OS X で SpectroScan を使用する場合は、MeasureToolを使って測色を行ってください。

◆i1とi1_Readerを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル
for i1 Ruler Board	CPMP_Draft_eye-one.eps	CPMP_Draft_256.ptn
	CPMP_Standard_eye-one_[1-3].eps	CPMP_Standard_1188.ptn
	CPMP_Full_eye-one_[1-4].eps	CPMP_Full_1584.ptn

- 「CPMP_Draft_eye-one.eps」、「CPMP_Standard_eye-one_[1-3].eps」、および「CPMP_Full_eye-one_[1-4].eps」は、i1に付属している測定用バックアップボードを使用することを想定しているので、測定用バックアップボードについているクリップで挟みやすいように上部に余白のある配置になっています。
- 測定用バックアップボードが付属していないi1を使用する場合は、下部に余白があった方が測色しやすいので、下部に余白がある配置の異なるパターン画像が「for i1 Ruler」フォルダーに同一ファイル名で用意されています。

◆i1iOとMeasureToolを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル
for i1iO and MeasureTool	CPMP_Full_i1iO_MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn

i1iOとMeasureToolを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。

C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro¥Chart folder¥EPS¥for i1iO and MeasureTool

◆i1iSisとMeasureToolを使用する場合

フォルダー	パターン画像セット	対応する測色パターンデータファイル	i1iSis のタイプ	
			i1iSis	i1iSis XL
for i1iSis and MeasureTool	CPMP_Full_iSis _MeasureTool_[1-2].eps	CPMP_Full_1584.ptn	□	□
for i1iSisXL and MeasureTool	CPMP_Full_iSisXL _MeasureTool.eps	CPMP_Full_1584.ptn		■

□：A4サイズ用です。A4よりも大きい用紙にプリントしたときは、実線で切り取ってください。

■：A3サイズ用です。

- i1iSisとMeasureToolを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。
  C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro¥Chart folder¥EPS¥for i1iSis and MeasureTool
- i1iSis XLとMeasureToolを使用して測色する場合、以下に測色パターンファイルが用意されています。
  C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro¥Chart folder¥EPS¥for i1iSisXL and MeasureTool

測色データの作成

操作手順

1. 以下のフォルダーにある任意のパターン画像セットを複製します。

   パターン画像セットは、測色に使用する測色器の種類によってファイルが異なります。

   C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro¥Chart folder¥EPS

2. 手順1で複製したパターン画像セットを印刷会社や印刷工場などに提供し、印刷を依頼します。

3. 手順1で複製したパターン画像セットをPhotoshopやIllustratorなどのCMYKを扱えるアプリケーションで、Print Serverを使用し、プリンターからプリントします。

- 測色用の印刷物をプリントした印刷環境と実際の印刷物で使われる印刷環境が異なっていた、というような問題を避けるために、印刷会社、印刷工場（製版部門、印刷部門）の担当者へ、目的を知らせる、または打ち合わせを行うことをお勧めします。
- 測色用の印刷物には、測色用のパッチのほかに、皮膚の色やハイライトなど、目立つ、またはよく使う種類の画像を一緒に配置しておくことをお勧めします。
- パターン画像セットをプリントする前に、プリンターのキャリブレーションを行ってください。DocuColor 1450 GA では、単色キャリブレーションとバランスキャリブレーションがありますが、CMYKプロファイルの作成では、単色キャリブレーションを推奨します。キャリブレーションについては、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。
- パターン画像セットのプリント時、プリントオプションの項目を、以下のとおりに設定してください。（Print Serverの機種によっては、設定できない場合があります）
  - ［カラー］＞［カラーモード］:［フルカラー1（RGB/CMYK）］、または［フルカラー（RGB/CMYK）］
  - ［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定）］＞［CMYK色補正］：チェックマークなし
  - ［カラー］＞［ユーザー調整］:［しない］
  - ［カラー］＞［濃度調整］:［しない］
  - ［カラー］＞［カラー詳細（共通設定）］＞［トナー総量調整］:［標準］
  - ［カラー］＞［明るさ調整］:［0］
  - ［画質］＞［その他の設定（画質）］＞［Image Enhancement/白抜き文字の強調］：しない
  - ServerManagerの［プリントジョブの設定］→［トナー制限を行う］（DocuColor 125＊ではチェックマークなし）
- Print Serverの［ジョブ読み込み］機能を使用してプリントすることもできます。［ジョブ読み込み］機能については、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。
- プリントされた各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。
- Photoshop でプリントする場合、Photoshop のポストスクリプトカラーマネージメントはオフにしてください。Photoshopのポストスクリプトカラーマネージメントをオンにして、プリント、またはEPSファイルを作成すると、Photoshop の［カラー設定］の［CMYK 設定］のカラープロファイル情報で色補正が行われます。（ICCプロファイルが埋め込まれます）
- Color Profile Maker Pro で作成したプロファイルを使用してプリントする場合も、ポストスクリプトカラーマネージメントをオフにして、ICCプロファイルが埋め込まれないようにして、PhotoshopからDeviceCMYKでプリントしてください。
- Photoshopのバージョンによって、「PostScriptカラー管理」、または「ポストスクリプトカラーマネージメント」というように表示が異なります。

4. 測色器を使って、手順2で入手した印刷物と手順3のプリント結果を番号順に測色し、それぞれの測色データを作成します。

- 測色器の違いによる誤差を避けるため、同じ測色器と測色条件で、測色データを作成してください。
- 測色するときには印刷物の下に、測色する用紙と同じ用紙の白紙を5枚以上重ねてください。

2.3　CMYKプロファイルに変換する

印刷物をターゲットとして、Print Serverで印刷シミュレーションするためのCMYKプロファイルに変換します。

変換モードには、通常モードと高精度モードがあります。

・「2.3.1 通常モード」（P.18）
・「2.3.2 高精度モード」（P.31）

2.3.1　通常モード

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Color Profile Maker Pro］→［Color Profile Maker Pro］を選択します。

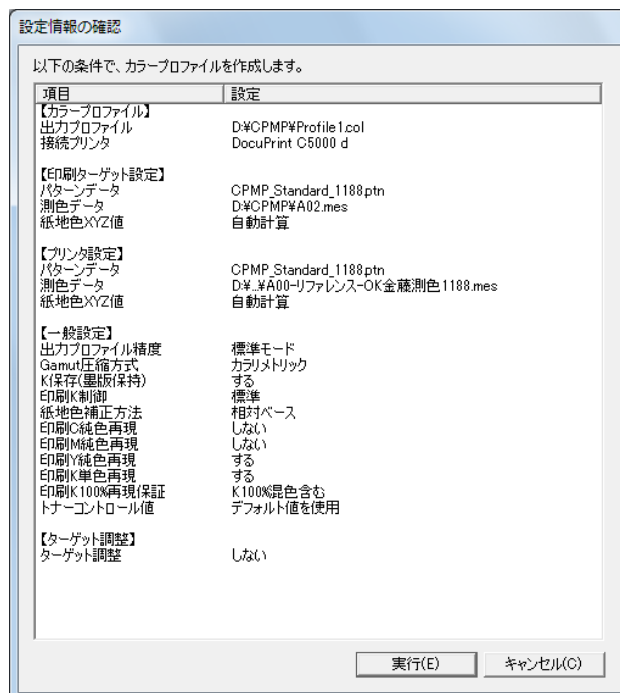
   Color Profile Maker Proが起動します。

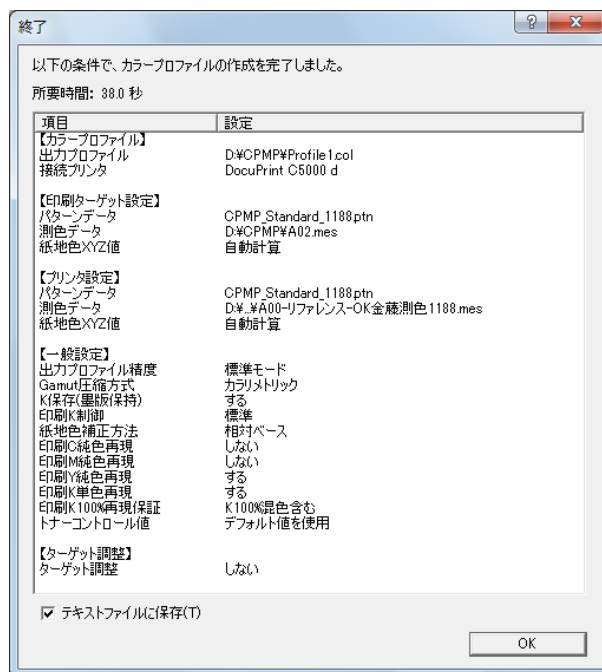
2. ［通常］をクリックします。

3. タブを切り替えて、作成するCMYKプロファイルの条件を設定し、［OK］をクリックします。

詳細は、「カラープロファイルの作成」の以下の各タブの説明を参照してください。

・「カラープロファイルの作成-各タブ共通」（P.20）
・「カラープロファイルの作成-［ファイル］タブ」（P.21）
・「カラープロファイルの作成-［作成条件1］タブ」（P.23）
・「カラープロファイルの作成-［作成条件2］タブ」（P.25）
・「カラープロファイルの作成-［作成条件3］タブ」（P.27）
・「カラープロファイルの作成-［紙地色指定］タブ」（P.30）

4. 表示されている設定内容をすべて確認し、［実行］をクリックします。

CMYKプロファイルの作成が開始されます。

5. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックします。

[テキストファイルに保存] にチェックマークを付けると、設定情報がテキスト形式で保存されます。テキストファイルのファイル名は、「出力プロファイル名.txt」です。

カラープロファイルの作成 - 各タブ共通

■接続プリンタ

プロファイルを使用するプリンターを選択します。

DocuColor 1450 GA では、非コート紙の場合 [DocuColor 1450 GA]、コート紙の場合 [DocuColor 1450 GA (コート紙)]、または [DocuColor 1450 GA (SilkCoated140)] を選択してください。
コート紙は [DocuColor 1450 GA (コート紙)] が JD コート紙 (127g/ ㎡)、[DocuColor 1450 GA (SilkCoated140)] が SilkCoated (140g/ ㎡) を想定していますので、用紙特性が近いものを選択してください。

■標準に戻す

クリックすると、すべてのタブの設定項目がデフォルトの設定に戻ります。

カラープロファイルの作成-［ファイル］タブ

■印刷ターゲットの特性設定

・[ICCプロファイルを指定］と［測色データファイルを指定］があります。どちらかを選択し、ファイル名を入力するか、［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでファイルを選択します。

・測色データを使用する場合は、［測色データファイルを指定］を選択します。また、［パターンデータ］に、測色データの作成に使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルを選択します。

・使用できる測色データファイルのファイルフォーマットは、以下のとおりです。

●Color Profile Maker Pro測色データファイル（*.mes）

測色ファイルコンバーターを使用すると作成される、Color Profile Maker Pro 独自の測色データファイルの形式です。
測色データを作成するときに使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルです。

●i1_Reader測色データファイル（*.it8）

i1_Readerを使用して測色した場合に作成される、測色データファイルの形式です。
測色データを作成するときに使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルです。

●SpectroChart測色データファイル（*.it8）

SpectroChartを使用して測色した場合に作成される、測色データファイルの形式です。
測色データを作成するときに使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルです。

●MeasureTool測色データファイル（*.txt）

MeasureToolを使用して測色した場合に作成される、測色データファイルの形式です。
「MeasureTool Lab File.ptn」を選択します。

●Color Profile Maker Pro中間ファイル（*.fxc）

ターゲット調整機能で調整結果を保存すると作成される、Color Profile Maker Pro 独自の中間ファイルの形式です。
パターンデータ情報を含んでいるため、パターンデータを選択する必要はありません。選択したパターンデータは無効になります。

Color Profile Maker Proでは、「Color Profile Maker Pro中間ファイル(*.fxc)」形式で、代表的な印刷特性の測色データを用意しています。用意されている印刷ターゲットの種類は、以下の通りです。

C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro¥Target¥JPN

用意されている印刷ターゲットの種類	説明
JapanColor2001（アート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2001」のアート紙（ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2001（マット紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2001」のマットコート紙（ISO規格用紙タイプ2）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2001（コート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2001」のコート紙（ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2001（上質紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2001」の上質紙（ISO規格用紙タイプ4）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2002（新聞）.fxc	新聞用Japan Color 2002（JCN2002）をシミュレーションできます。
JapanColor2003（輪転）.fxc	オフセット輪転印刷用（商業オフ輪用）Japan Color 2003（JCW2003）をシミュレーションできます。
JapanColor2007（アート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2007」のアート紙（ISO規格用紙タイプ1）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2007（マット紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2007」のマットコート紙（ISO規格用紙タイプ2）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2007（コート紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2007」のコート紙（ISO規格用紙タイプ3）印刷をシミュレーションできます。
JapanColor2007（上質紙）.fxc	社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color色再現印刷2007」の上質紙（ISO規格用紙タイプ4）印刷をシミュレーションできます。
雑誌広告基準カラー V2（2004）.fxc	雑誌広告基準カラー（JMPAカラー）Version2をシミュレーションできます。
SWOP2006 Grade3.fxc	米国での、主に出版オフセット輪転印刷の標準色であるSWOP2006に近づくようにシミュレーションできます。
GRACoL2006.fxc	米国のプロセスカラー規格です。
ISO Coated v2.fxc	EUのプロセスカラー規格です。

■プリンタの特性設定

・［プリンタの代表値を使用］、［ICCプロファイルを指定］、［測色データファイルを指定］があります。

・［プリンタの代表値を使用］の場合は、プリンターの代表値が使用されます。

- プリンターの代表値は、原稿タイプが「写真」のものになっています。
- ほかの原稿タイプのプロファイルを作成する場合は、「2.2 測色データを作成する」（P.15）の手順3に従ってパターン画像セットをプリントして測色してください。

・測色データを使用する場合は、［印刷ターゲットの特性設定］と同様に、［測色データファイルを指定］を選択します。また、［パターンデータ］に、測色データの作成に使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルを選択します。

・［測色データファイルを指定］、または［ICCプロファイルを指定］の場合は、ファイル名を入力するか、［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでファイルを選択します。

［プリンタの代表値を使用］の場合は、プリンターの正確な特性を把握できないので、カラーマッチングの精度は落ちることがありますが、印刷ターゲットとしてICCプロファイルを入手したときなどは、測色を行わなくてもプロファイルを作成できます。

原稿タイプについては、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。

■出力プロファイル

作成するプロファイル名を入力し、［保存先］をクリックして保存先を選択します。

カラープロファイルの作成-［作成条件1］タブ

■紙地色補正方法

紙地色補正とは、用紙の違いによって再現される色が変わる現象を調整する方法です。

●相対ベース

印刷物とプリンターで使用する用紙の紙地色を基準に調整されます。それぞれの基準に従ってカラー画像の全体的なバランスをとりながら処理します。

測色器による色差比較など、各色の絶対レベルでの比較では、絶対ベースには劣る場合がありますが、用紙の白色に対する感じ方やハイライトの自然さなどに優れたプロファイルが作成されます。

●相対ベース/中高濃度絶対

低濃度域は印刷物とプリンターで使用する用紙の紙地色を基準に調整され、中高濃度域は、印刷物の色をそのまま再現するように調整されます。

測色器による色差比較など、各色の絶対レベルでの比較では［絶対ベース］の方が色差は小さくなりますが、用紙の白色に対する感じ方やハイライトの自然さなどに優れたプロファイルが作成されます。

●絶対ベース/白のみ補正

印刷物の色をそのまま再現するように調整されます。ただし、白の色がプリンター用紙の白に調整されます。

印刷物の用紙がプリンター用紙よりもわずかに濃い場合など、［絶対ベース］ではファイルの白い部分に薄く色がついて、汚れのように見えることがあります。このような場合に、ファイルの白い部分が白であるプロファイルを作成できます。

●絶対ベース

印刷物の色をそのまま再現するように調整されます。印刷物が地色付きの用紙の場合に選択します。

印刷物が地色付きの場合は、ファイルの白い部分に地色を付けてプリントされます。

［絶対ベース］を選択して地色のシミュレーションを行う場合の設定について

- 「作成条件2」の［印刷Y純色→プリンタY純色再現］を［しない］にすることをお勧めします。
- ［印刷Y純色→プリンタY純色再現］を［する］にすると、色差で比較したときの精度は落ちますが、少量のシアンやマゼンタの混合を排除できます。［しない］にすると、イエロー単色の印刷物の色にシアンやマゼンタを微量に混ぜて色を精度良くシミュレーションできます。ただし、地色がついている紙の場合は、地色よりも明るくなってしまうことがあるので、［しない］をお勧めします。
- ［印刷K単色→プリンタK単色再現］も［しない］をお勧めします。
- ［印刷K単色→プリンタK単色再現］は、ブラック単色の文字や線の色がわずかににじんで見える現象を抑えたり、白黒だけのファイルをグレースケールでプリントしたりするモードです。ただし、地色がついている紙の場合は、ブラックと地色とのつながりが不自然になることがあるので、［しない］をお勧めします。

［相対ベース］の場合、用紙の白の色のばらつきを防ぐために、用紙の色を任意の値で入力できます。「カラープロファイルの作成-［紙地色指定］タブ」（P.30）を参照してください。

■K保存（墨版保持）

K保存とは、CMYKデータをプリントする場合に、色再現で重要な役割を持つK版の情報を保持する機能です。

■印刷K単色→プリンタK単色再現

印刷するファイルに含まれるK単色のデータがプリンターのK単色で再現されます。K単色の文字をはっきりとプリントする、Kだけの中間調をプリンターのKだけでプリントする効果があります。

［しない］の場合、ファイルのK単色の部分にも色トナーが混ざります。

- ［する］にした場合、設定した色の近傍で色味の忠実性が低下することがあります。これは、［印刷K単色→プリンタK単色再現］が優先されるためです。
- ［する］にした場合、ファイルによっては墨の周りの階調が不自然になることがあります。
- 黒の色相、または黒の近傍の色相まで、より厳密にシミュレーションする場合に［しない］を設定します。ただし、黒だけの場合にもほかの色のトナーを混ぜてシミュレーション精度を上げることになりますので、白黒だけのファイルであってもプリントはカラーと同様ということになります。（したがって、プリントオプションの［画質］>［その他の設定］>［カラーの自動検出］機能でもカラーと判断されます）

■印刷K100%再現保証

印刷するファイルのK100%の色指定をどのようにプリントするかを選択します。通常は、黒文字（K100%）の判読性を高めるために、［K100%混色含む］を選択します。

●K100%混色含む

黒文字（K100%）の判読性を高める場合に選択します。印刷するファイルでK100%のデータは、プリンターでもK100%でプリントされます。

C、M、Yの値にかかわらずKが100%であるときは、プリンターのK成分は100%でプリントされるようになり、C、M、Y成分は、カラーマッチングの結果、適切な値でプリントされます。

Kオーバープリントなどで C、M、Y成分を含んでいるようなKが100%の文字でも、より黒く判読性の高いプリントができます。

●K100%純色のみ

黒文字（K100%）の判読性を高めるときに選択します。印刷するファイルでK100%（C、M、Yは0%）のデータは、プリンターでもK100%（C、M、Yは0%）でプリントされます。

シミュレーションを行う印刷物のKの濃度が薄い場合、［K100%混色含む］を選択すると、C、M、Yが混ざっていて、Kが100%のデータは濃くなってしまうことがあります。［K100%純色のみ］を選択することで、実際の印刷物の濃度に合わせたシミュレーションが行われます。

●しない

シミュレーションを行う印刷物のKの濃度が薄い場合で、K100%を実際のKの濃度に合わせて薄くプリントするときに、［しない］にします。

カラープロファイルの作成-［作成条件2］タブ

■出力プロファイル精度

作成するプロファイルの精度を選択します。

●標準モード9×9×9×9

9×9×9×9の格子点のCMYKプロファイルが作成されます。

●高精細モード17×17×17×17

17×17×17×17の格子点のCMYKプロファイルが作成されます。格子点が細かいので、高精度なシミュレーションができます。［標準モード9×9×9×9］よりも処理時間は長くなります。

■Gamut圧縮方式

Gamut圧縮方式とは、再現できる色の範囲のデバイスによる違いを調整する方式のことです。

●カラリメトリック

再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためプリンターで再現できない色については、最も近い色に再現できるよう処理されます。

●パーセプチャル

カラー画像の全体的なバランスをとりながら処理されます。

●サチュレーション

再現できる色領域は色を一致させ、異なる色領域のためプリンターで再現できない色については、色相や彩度のバランスをとりながら再現できるよう処理されます。

■印刷K制御

K版保存方式の選択を行います。

[接続プリンタ] で、DocuColor 1255、DocuColor 1256 GA、またはDocuColor 1257 GAを選択した場合は、[標準]、または [V3.0互換]（Color Profile Maker Proの過去のバージョン（Version 3.0）と互換の動作）を選択できます。それ以外のプリンターでは、[標準] を選択します。

■純色再現設定

単色の印刷物の色に、ほかの色を微量に混ぜて色を精度良くシミュレーションするか、または色差で比較したときの精度は落ちても、目障りな少量の色の混合を排除するかを選択できます。通常は、印刷C純色と印刷M純色を [しない]、印刷Y純色を [する] で使用します。

●印刷C純色→プリンタC純色再現

印刷するファイルに含まれるシアン純色のデータがプリンターのシアン純色で再現されます。[しない] の場合、ほかの色を混ぜて色を近づけます。

●印刷M純色→プリンタM純色再現

印刷するファイルに含まれるマゼンタ純色のデータがプリンターのマゼンタ純色で再現されます。[しない] の場合、ほかの色を混ぜて色を近づけます。

●印刷Y純色→プリンタY純色再現

印刷するファイルに含まれるイエロー純色のデータがプリンターのイエロー純色で再現されます。[しない] の場合、ほかの色を混ぜて色を近づけます。

特に、イエローは微量であってもほかの色が混ざると目立つので、通常は [する] にして、イエロー純色で再現したほうが良い効果が得られます。

・[純色再現設定] のどれかを [する] にした場合、設定した色の近傍で色味の忠実性が低下することがあります。これは、[純色再現設定] が優先されるためです。また、ファイルによっては純色の周りの階調が不自然になることがあります。
・CMYKプロファイル作成時、[作成条件1] タブの [紙地色補正方法] が [絶対ベース] の場合（地色のシミュレーションを行う場合）は、[印刷Y純色→プリンタY純色再現] を [しない] にすることをお勧めします。地色のついている紙の場合は、[印刷Y純色→プリンタY純色再現] を [する] にして、イエローに混ざるほかの色を抜いてしまうと、実際の紙の地色よりも明るくなってしまうことがあります。

カラープロファイルの作成-［作成条件3］タブ

■トナーコントロール

作成するプロファイルのトナーの最大使用量（C、M、Y、Kの合計%）を選択できます。濃度や色差を実際のターゲットに近い状態でトナー量を調整します。通常は［デフォルト値を使用］を選択します。

［超低総量規制］の［規制する］にチェックマークが付いているときは、［トナーコントロール］を設定できません。

●デフォルト値を使用

［接続プリンタ］で選択されているプリンターのデフォルト値を使用します。

●制御を行う

トナーの最大使用量を入力する場合に選択します。

制御値%

［制御を行う］の場合、制御値を入力します。入力範囲は、200～＊＊＊%（＊＊＊は［接続プリンタ］で選択されているプリンターのデフォルト値）です。

■超低総量規制

●規制する

チェックマークを付けると、規制できます。作成するプロファイルのトナーの最大使用量（C、M、Y、Kの合計%）を200%以下に規制できます。通常はチェックマークを外します。

超低総量規制では、200%以下に規制（二次色も対象になる）するため、一次色も含めて見た目で違和感のない画像を得るGamut圧縮が行われます。

チェックマークを付けると、［トナーコントロール］は設定できません。チェックマークを外すと、［トナーコントロール］の設定に従って、プロファイルが作成されます。

- ［作成条件1］タブの［K保存（墨版保持）］が［しない］になっているとき、または［作成条件2］タブの［印刷K制御］が［標準］以外のときは、［規制する］にできません。
- ［規制する］にチェックマークを付けると、［作成条件2］タブにある［Gamut圧縮方式］の［パーセプチャル］と［サチュレーション］は同じ結果になります。また、Gamut（色域）が極端に規制されるため、［作成条件 2］タブにある［Gamut 圧縮方式］の切り替えによる画像の変化は、より大きなものになります。

規制値%

［規制する］にチェックマークを付けたとき、規制値を選択します。入力範囲は、160～200%です。

■ターゲット調整

プロファイルの色再現を調整できます。

●調整する

チェックマークを付けると、調整できます。通常はチェックマークを外します。

チェックマークを付けたときは、[調整] をクリックして表示される [ターゲット調整] ダイアログボックスで値を設定します。

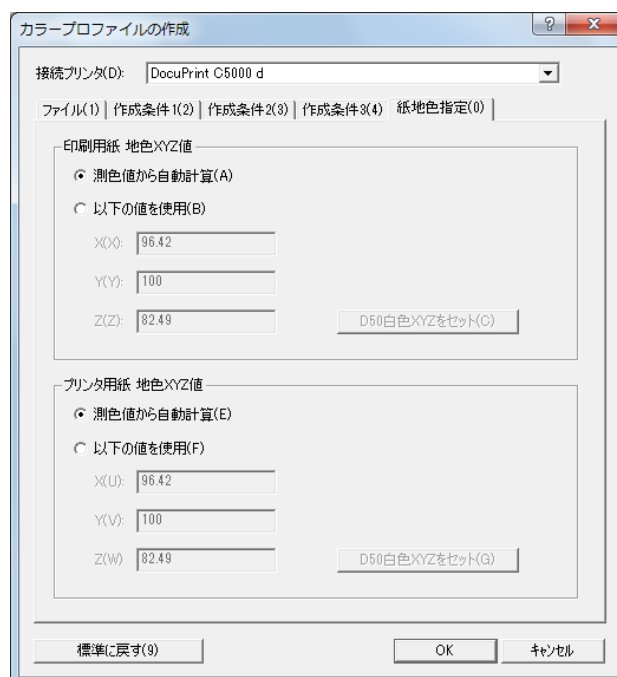
補足 ターゲット調整機能を使用すると、プロファイルの色精度が低下することがあります。

[ターゲット調整] ダイアログボックス

項目		説明
調整量	明るさ	明るさを調整します。 「+」の値を入力すると明るく、「-」の値を入力すると暗く調整されます。入力範囲は、-100～100です。通常は [0] を入力します。
	鮮やかさ	鮮やかさを調整します。 「+」の値を入力すると鮮やかに、「-」の値を入力すると鮮やかさを抑えるように調整されます。入力範囲は、-100～100です。通常は[0]を入力します。
	色調整	色味を調整します。 [緑-赤] の設定項目では、「+」の値を入力するとより赤に近い色に、「-」の値を入力するとより緑に近い色に調整されます。 [青-黄] の設定項目では、「+」の値を入力するとより黄色に近い色に、「-」の値を入力するとより青に近い色に調整されます。 入力範囲は、-100～100です。通常は [0] を入力します。
対象領域	明るさ	色調整の有効範囲を明るさで選択できます。[ハイライト]、[中間調]、[シャドウ] のチェックマークを付けた範囲が色調整の対象です。通常はすべてにチェックマークを付けます。 補足 隣接する範囲でチェックマークあり・なしが設定された場合は、調整効果が連続的に変化するように処理されます。
	色相	色調整の有効範囲を色相方向で選択できます。[Y]、[R]、[M]、[B]、[C]、[G] のチェックマークを付けた色相が色調整の対象です。通常はすべてにチェックマークを付けます。 補足 ・隣接する色相でチェックマークあり・なしが設定された場合は、調整効果が連続的に変化するように処理されます。 ・1つ以上の色相のチェックマークを外した場合は、以下の設定が自動的に行われます。 　・[白点固定]、[黒点固定]、[グレー軸近傍を固定] はチェックマークあり 　・[シャドウのみを対象]、[有彩色を固定] はチェックマークなし

項目		説明
対象領域	白点固定	白（紙色）を色調整の対象とするかどうかを選択します。 チェックマークを付けると、白から離れるに従って色調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。 補足 ・［作成条件 1］タブの［紙地色補正方法］が［絶対ベース］の場合、紙地色を含めて色調整を行うときは、チェックマークを外してください。紙地色を変化させないように色調整を行うときは、チェックマークを付けてください。 ・［作成条件1］タブの［紙地色補正方法］が［相対ベース］、または［相対ベース/中高濃度絶対］の場合は、チェックマークあり・なし、どちらでも紙地色に影響しません。 ・［色相］で１つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークありで固定になります。また、［シャドウのみを対象］、または［有彩色を固定］にチェックマークを付けた場合は、チェックマークありで固定になります。
	黒点固定	プロセスブラックを色調整の対象とするかどうかを選択します。 チェックマークを付けると、プロセスブラックから離れるに従って色調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。 補足 ・［色相］で１つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークありで固定になります。 ・［シャドウのみを対象］にチェックマークを付けた場合は、チェックマークなしで固定になります。 ・［有彩色を固定］にチェックマークを付けた場合は、チェックマークありで固定になります。
	シャドウのみを対象	チェックマークを付けると、色調整の対象をシャドウ領域（トナー総量の多い領域）に限定して、トナー総量が高くなるに従って色調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。 補足 ［色相］で1つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークなしで固定になります。また、チェックマークを付けた場合は、［白点固定］はチェックマークあり、［黒点固定］はチェックマークなしで固定になります。
	グレー軸近傍を固定	チェックマークを付けると、グレーに近い色を色調整の対象から除外して、グレーから離れるに従って、調整の効果が現れるように処理されます。通常はチェックマークを外します。 補足 ・［色相］で１つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークありで固定になります。 ・チェックマークを付けた場合は、［有彩色を固定］はチェックマークなしで固定になります。
	有彩色を固定	チェックマークを付けると、グレーに近い色を色調整の対象として、グレーから離れるに従って調整の効果が弱くなるように処理されます。通常はチェックマークを外します。 補足 ［色相］で1つ以上のチェックマークを外した場合は、チェックマークなしで固定になります。また、チェックマークを付けた場合は、［白点固定］、［黒点固定］はチェックマークあり、［シャドウのみを対象］、［グレー軸近傍を固定］はチェックマークなしで固定になります。
調整結果の保存		クリックすると、［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されるので、保存する場所とファイル名を設定し、［保存］をクリックします。［ターゲット調整］ダイアログボックスで設定した内容が保存されます。ファイルの拡張子は、「.fxc」です。 保存されたファイルは、［ファイル］タブにある［印刷ターゲットの特性設定］の［測色データファイルを指定］で選択できます。

カラープロファイルの作成-［紙地色指定］タブ

［紙地色指定］タブは、通常モードのときにだけ表示されます。

■印刷用紙 地色XYZ値、プリンタ用紙 地色XYZ値

［作成条件1］タブの［紙地色補正方法］で［相対ベース］を選択して、複数のプロファイルを作成したり、定期的にプロファイルを作成したりする場合、プロファイルごとに白の測色値が変動し、ばらつきが発生することがあります。ここで同じ値を入力すると、ばらつきを抑えることができます。

値を設定する場合は［印刷用紙 地色XYZ値］、または［プリンタ用紙 地色XYZ値］の［以下の値を使用］を選択して、数値を入力します。

入力範囲は、0.000～1000.000です。（ただし、X＜Y＜Z）
例：（X,Y,Z）＝（95.045,100.000,108.892）

●D50白色XYZをセット

クリックすると、D50白色のXYZ値（X:96.42,Y:100,Z:82.49）が入力されます。

2.3.2　高精度モード

高精度モードでは、CMYKプロファイルを繰り返し作成することによって色差を診断し、最適化することによって、より高精度なCMYKプロファイルを作成できます。

高精度モードでは、以下の設定は変更できません。

- ［作成条件1］の［K保存（墨版保持）］は［する］
- ［作成条件2］の［Gamut圧縮方式］は［カラリメトリック］
- ［紙地色指定］

CMYKプロファイルの作成

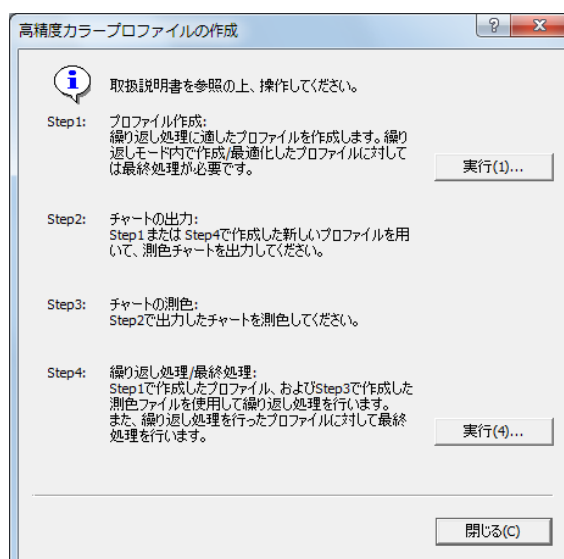
繰り返し処理に適したCMYKプロファイルを新規に作成します。

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Color Profile Maker Pro］→［Color Profile Maker Pro］を選択します。

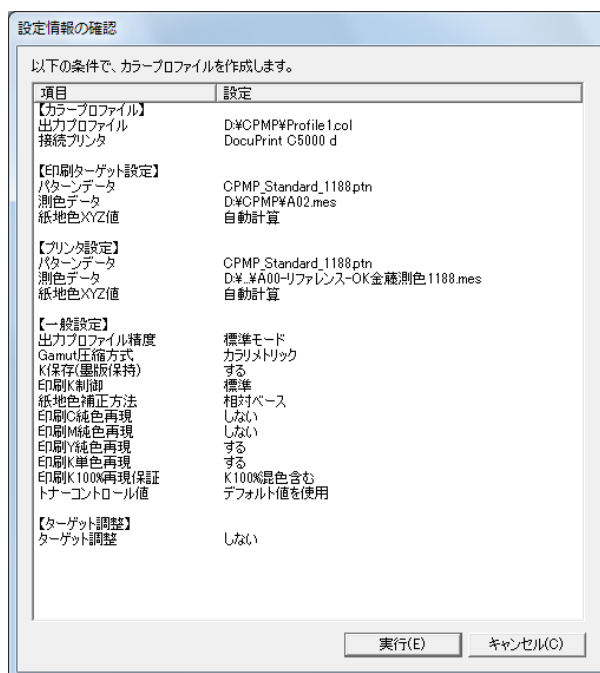
   Color Profile Maker Proが起動します。

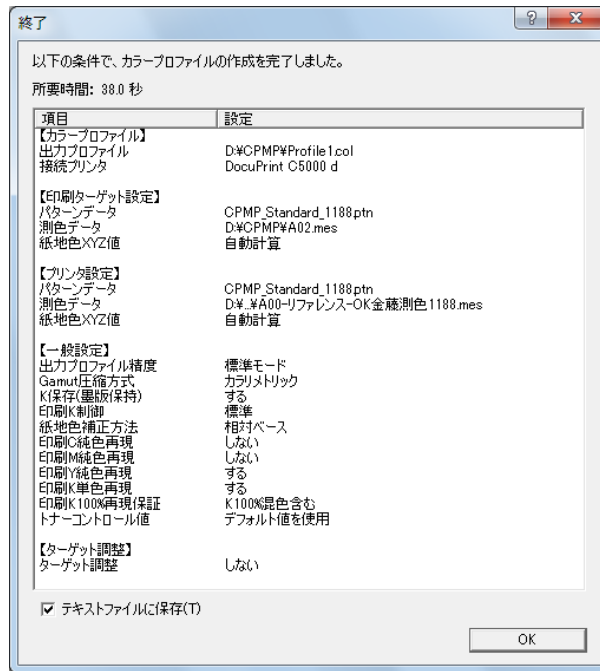
2. ［高精度］をクリックします。

3. ［Step1］の［実行］をクリックします。

4. タブを切り替えて、作成するCMYKプロファイルの条件を設定し、[OK] をクリックします。

詳細は、「カラープロファイルの作成」の以下の各タブの説明を参照してください。

・「カラープロファイルの作成 - 各タブ共通」(P.20)
・「カラープロファイルの作成 - [ファイル] タブ」(P.21)
・「カラープロファイルの作成 - [作成条件1] タブ」(P.23)
・「カラープロファイルの作成 - [作成条件2] タブ」(P.25)
・「カラープロファイルの作成 - [作成条件3] タブ」(P.27)

5. 表示されている設定内容をすべて確認し、[実行] をクリックします。

CMYKプロファイルの作成が開始されます。

6. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックします。

[テキストファイルに保存]にチェックマークを付けると、設定情報がテキスト形式で保存されます。テキストファイルのファイル名は、「出力プロファイル名.txt」です。

繰り返し処理用測色データの作成

繰り返し処理用CMYKプロファイルを割り当てて、パターン画像セットをプリントし、測色データを作成します。

参照 パターン画像セットについては、「2.2 測色データを作成する」(P.15)を参照してください。

操作手順

1. 「CMYKプロファイルの作成」(P.31)で作成した2つのプロファイル(「プロファイル名_FB＊＊.col」と「プロファイル名_FB＊＊.dat」)をPrint Serverの以下のフォルダーに保存します。

◆Print Server Seriesの場合(XXXはプリンターの機種名です)

D:¥Fuji Xerox¥Print Server Series¥cpsi¥ColorProfile¥CMYKSimulation¥XXX

◆PX Print Serverの場合(XXXはプリンターの機種名です)

D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥ColorProfile¥CMYKSimulation¥XXX

- プロファイル名の「＊＊」には、繰り返し処理の回数が入ります。
- Print Server にプリンターを2台接続している場合で、2台目のプリンターに接続するときは、「XXX(プリンターの機種名)_2」フォルダーに保存してください。
- プロファイル名に記号や漢字を使用している場合、プロファイル認識時にシステムが文字コードを変換するため、入力したものと違う名前になっていることがあります。
- CMYKプロファイル名は、作成時から変更しないでください。プロファイル名を変更すると、CMYKプロファイルを使用したPrint Serverでのプリント処理でエラーが発生します。
- 作成済みのプロファイルは、Print Serverのバージョンによっては、ServerManagerの[カラー](または[カラー調整])メニューから読み込むことができます。詳細は、Print Server のユーザーズガイドを参照してください。
- Print Server のバージョンによっては、プリントデータに埋め込まれた ICC プロファイルを無視して、DeviceCMYKとして処理を行い、Color Profile Maker Proで作成したCMYKプロファイルで処理できるように設定できます。ServerManager の[システム](または[ツール])→[プリントジョブの設定]→[埋め込みカラープロファイルを無視する(CIEBasedA/DEF/DEFG)]、または[CIEカラーを無視する(A/DEF/DEFG)]にチェックマークを付けてください。

2. 手順1で保存したCMYKプロファイルを割り当てます。

参照 CMYKプロファイルの割り当てについては、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。

3. Print Serverのキャリブレーションを実施します。

参照 キャリブレーションについては、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。

4. パターン画像セットをPhotoshopやIllustratorなどのCMYKを扱えるアプリケーションで開き、プリントオプションの［カラー］>［カラー詳細（CMYK設定）］>［CMYKシミュレーション］で、手順2で登録したCMYKプロファイルを選択します。

5. クライアントコンピューターからプリントする場合は、プリントオプションの［カラー］>［カラー詳細（CMYK設定）］>［CMYK色補正］に必ずチェックマークを付けます。

6. プリントします。

7. 測色器を使って、手順6のプリント結果を測色し、測色データを作成します。

補足 測色するときには印刷物の下に、測色する用紙と同じ用紙の白紙を5枚以上重ねてください。

CMYKプロファイルの最適化と最終処理

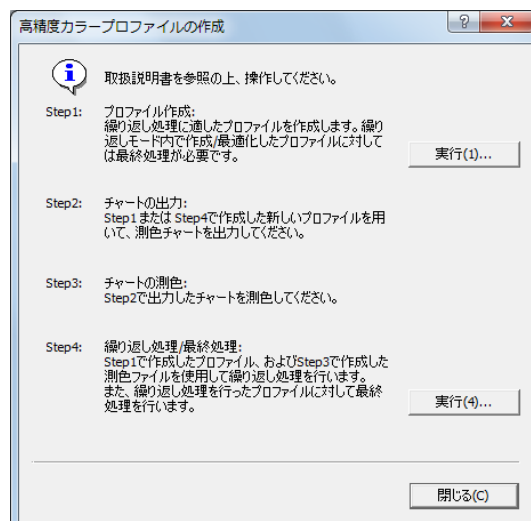
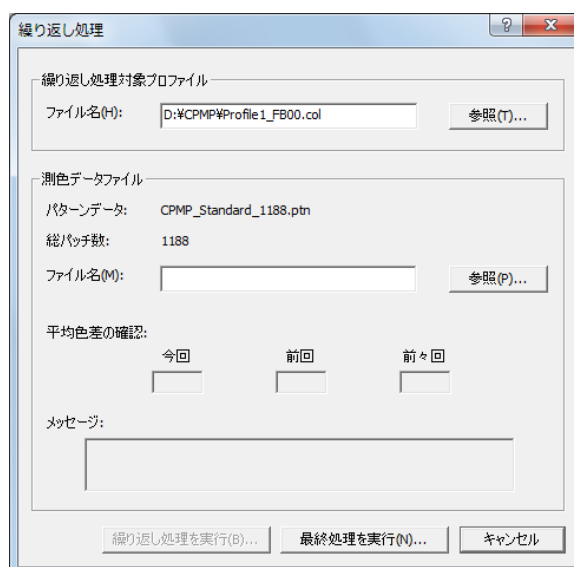
「CMYKプロファイルの作成」（P.31）で作成したCMYKプロファイルに繰り返し処理をして、CMYKプロファイルを最適化します。また、最適化されたCMYKプロファイルに最終処理をして、すべてのパラメーターが適用されたCMYKプロファイルを生成します。

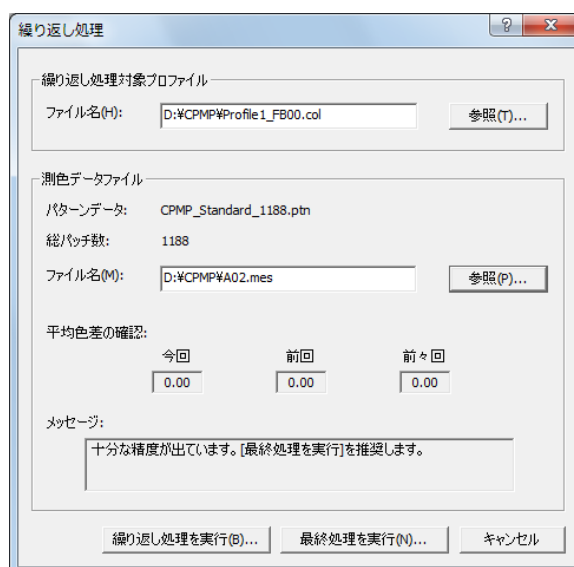
操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Color Profile Maker Pro］→［Color Profile Maker Pro］を選択します。

   Color Profile Maker Proが起動します。

2. ［高精度］をクリックします。

3. ［Step4］の［実行］をクリックします。

4. ［繰り返し処理対象プロファイル］を変更する場合は、［参照］をクリックして、繰り返し処理用CMYKプロファイルを選択します。

［測色データファイル］の［パターンデータ］と［総パッチ数］が表示されます。

5. ［測色データファイル］の［参照］をクリックして、「繰り返し処理用測色データの作成」(P.33) で作成した測色データファイルを選択します。

［平均色差の確認］に［今回］、［前回］、および［前々回］の色差の値が表示され、［メッセージ］に色差診断結果が表示されます。

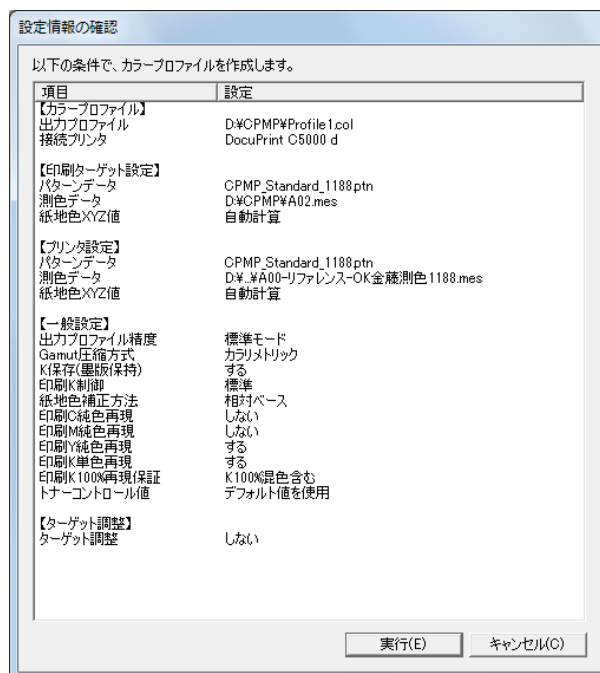
◆さらに精度を上げたい場合

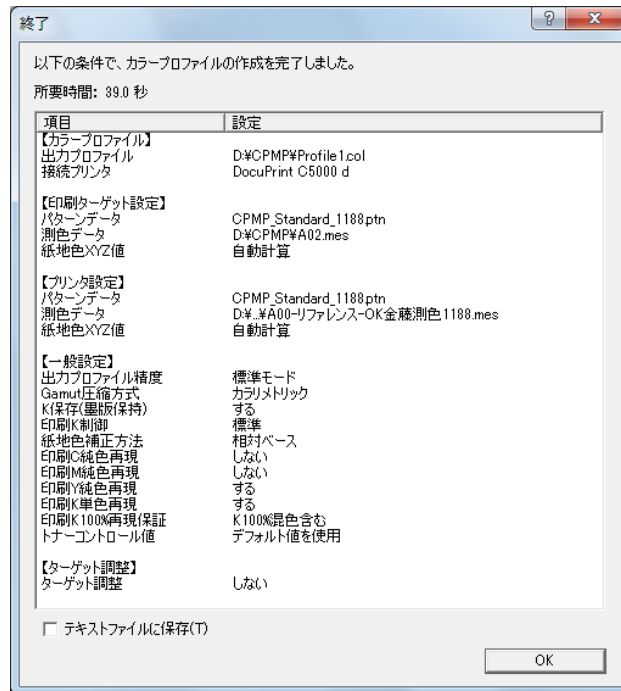
［繰り返し処理を実行］をクリックします。

◆現在の精度でよい場合

［最終処理を実行］をクリックします。

補足　繰り返し処理を実行せずに最終処理を行うため、最終処理されたプロファイルの色差は、［今回］の値となります。

6. 表示されている設定内容をすべて確認し、［実行］をクリックします。

CMYKプロファイルの作成が開始されます。

7. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK］をクリックします。

2.4　印刷シミュレーションをする

Color Profile Maker Proで作成したCMYKプロファイルを使って、印刷シミュレーションができます。

操作手順

1. 「2.3.1 通常モード」（P.18）、または「2.3.2 高精度モード」（P.31）で作成した3つのプロファイル（「プロファイル名.col」、「プロファイル名.dat」、および「プロファイル名.fxa」）をPrint Serverの以下のフォルダーに保存します。

   ◆Print Server Seriesの場合（XXXはプリンターの機種名です）

   D:¥Fuji Xerox¥Print Server Series¥cpsi¥ColorProfile¥CMYKSimulation¥XXX

   ◆PX Print Server、またはPrintServer N Seriesの場合（XXXはプリンターの機種名です）

   D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥ColorProfile¥CMYKSimulation¥XXX

   - 印刷シミュレーションするプリントデータにICCプロファイルを埋め込んでいる場合は、プリントデータを作成して保存したアプリケーションで、埋め込みを解除することをお勧めします。
   - Color Profile Maker Proで作成したCMYKプロファイルは、CMYKデータ（DeviceCMYK）に対するものです。ICCプロファイルを埋め込んであるプリントデータは、ICCプロファイルの情報を使用したCIEbasedカラーのデータになっています。このため、ICCプロファイルを埋め込んであるプリントデータは、通常、Color Profile Maker Proでの印刷シミュレーションが行われません。
   - Print Serverにプリンターを2台接続している場合で、2台目のプリンターに接続するときは、「XXX（プリンターの機種名）_2」フォルダーに保存してください。
   - プロファイル名に記号や漢字を使用している場合、プロファイル認識時にシステムが文字コードを変換するため、入力したものと違う名前になっていることがあります。
   - CMYKプロファイル名は、作成時から変更しないでください。プロファイル名を変更すると、CMYKプロファイルを使用したPrint Serverでのプリント処理でエラーが発生します。
   - 作成済みのプロファイルは、Print Serverのバージョンによっては、ServerManagerの［カラー］（または［カラー調整］）メニューから読み込むことができます。詳細は、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。
   - Print Serverのバージョンによっては、プリントデータに埋め込まれたICCプロファイルを無視して、DeviceCMYKとして処理を行い、Color Profile Maker Proで作成したCMYKプロファイルで処理できるように設定できます。ServerManagerの［システム］（または［ツール］）→［プリントジョブの設定］→［埋め込みカラープロファイルを無視する（CIEBasedA/DEF/DEFG）］、または［CIEカラーを無視する（A/DEF/DEFG）］にチェックマークを付けてください。

2. 手順1で保存したCMYKプロファイルを割り当てます。

   参照　CMYKプロファイルの割り当てについては、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。

3. Print Serverのキャリブレーションを実施します。

   参照　キャリブレーションについては、Print Serverのユーザーズガイドを参照してください。

4. PhotoshopやIllustratorなどのCMYKを扱えるアプリケーションで印刷シミュレーションするファイルを開き、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定）］＞［CMYKシミュレーション］で、手順2で登録したCMYKプロファイルを選択します。

5. クライアントコンピューターからプリントする場合は、プリントオプションの［カラー］＞［カラー詳細（CMYK設定）］＞［CMYK色補正］に必ずチェックマークを付けます。

6. プリントします。

   プリントされたドキュメントで、仕上がりイメージを確認してください。

2.5　ユーティリティについて

プリント時の設定、およびプロファイルの調整をします。

2.5.1　デバイスリンクICCプロファイルの変換

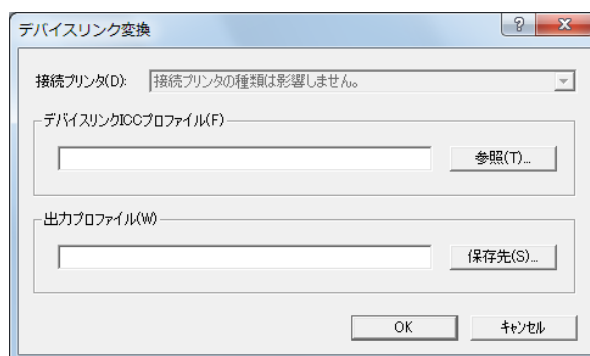
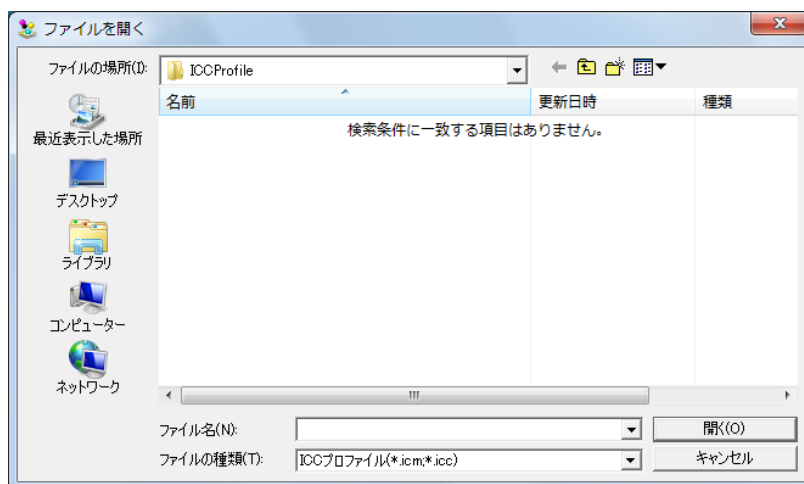
ほかのアプリケーションで作成したデバイスリンクICC（International Color Consortium）プロファイルをPrint Server専用のCMYKプロファイルに変換できます。

操作手順

1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Color Profile Maker Pro］→［Color Profile Maker Pro］を選択します。

   Color Profile Maker Proが起動します。

2. ［デバイスリンク変換］をクリックします。

3. ［デバイスリンクICCプロファイル］に変換するデバイスリンクICCプロファイル名を、［出力プロファイル］に作成するプロファイル名を入力します。

- プロファイル名に一部の記号や漢字を使うと、プロファイル認識時にシステムが文字コードを変換するため、入力したものと違う名前になる場合があります。
- CMYKプロファイルは、選択した保存先に、「プロファイル名.col」と「プロファイル名.dat」の2つのプロファイルとして保存されます。(「プロファイル名」は、同じ名前が設定されます)
- 作成したCMYKプロファイル名は、変更しないでください。プロファイル名を変更すると、CMYKプロファイルを使用したPrint Serverでのプリント処理で、エラーが発生します。
- [接続プリンタ]は、Color Profile Maker ProをPrint Serverから起動したときに有効になります。
- [デバイスリンクICCプロファイル]は、[参照]をクリックして表示される[ファイルを開く]ダイアログボックスからプロファイルを選択することもできます。

4. [保存先]をクリックし、保存先を選択して、[OK]をクリックします。
5. 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックします。

2.5.2 色域表示

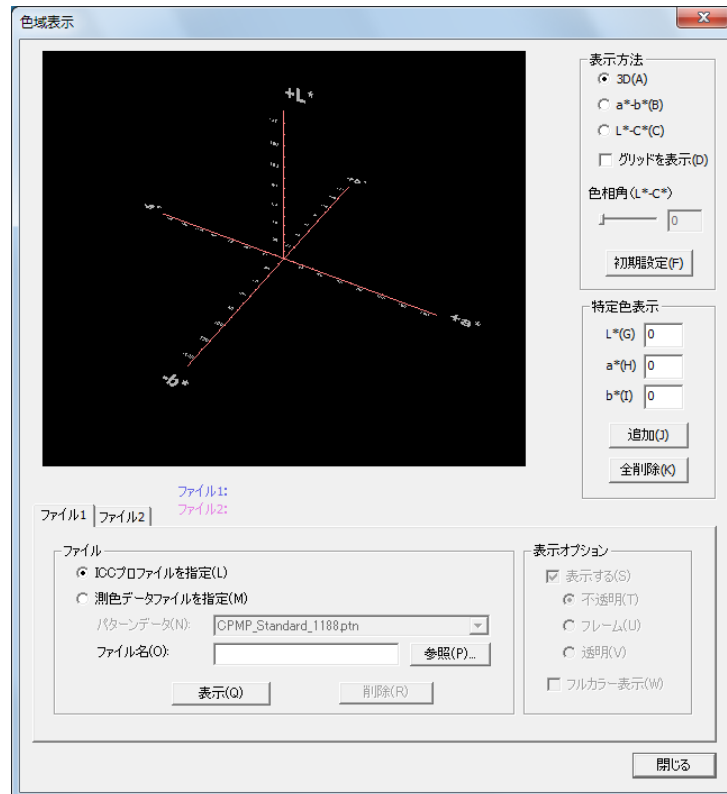
測色データ、およびICCプロファイルで定義される色域を3Dの立体で表示できます。

操作手順

1. Windowsの[スタート]→[すべてのプログラム]→[Fuji Xerox]→[Color Profile Maker Pro]→[Color Profile Maker Pro]を選択します。

   Color Profile Maker Proが起動します。

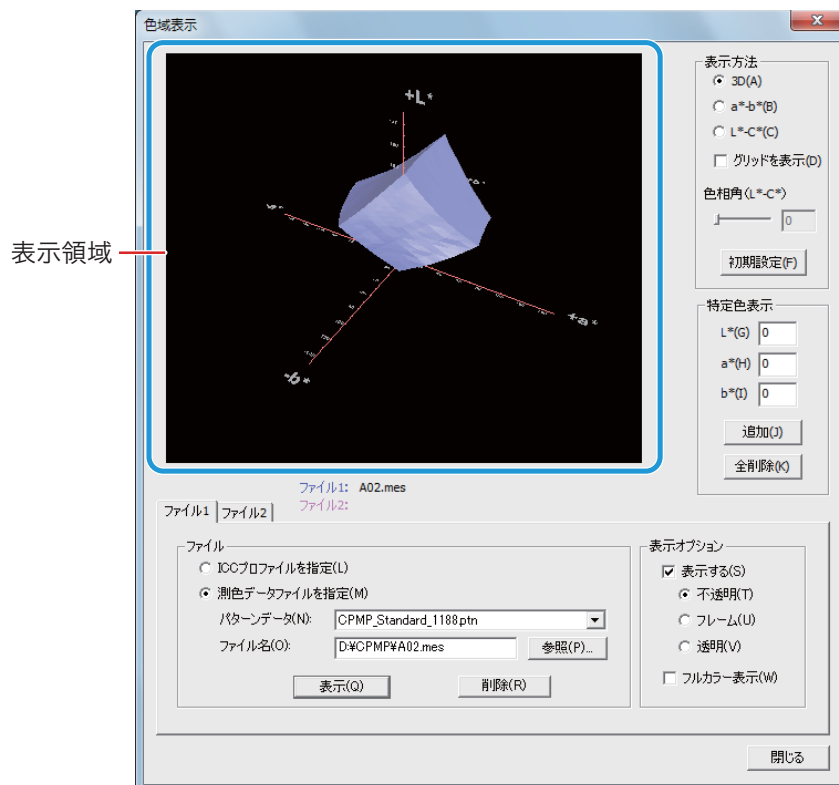
2. [色域表示]をクリックします。

3. ［ファイル］の［ICCプロファイルを指定］、または［測色データファイルを指定］を選択します。

4. ［参照］をクリックし、表示させるファイルを選択します。

補足

- ［測色データファイルを指定］を選択した場合は、測色データの作成に使用したパターン画像セットに対応する測色パターンデータファイルを選択します。
- 選択できる測色データファイルの種類は、以下のとおりです。
  - 測色データ（.mes、.ptn、.it8）
  - CPMP中間データ形式（.fxc）
- 2つめのファイルを選択する場合は、「ファイル2」タブをクリックして、ファイルを選択します。

5. ［表示］をクリックします。

6. 必要に応じて、色域の表示を設定します。

項目		説明
表示オプション	表示する	チェックマークを付けると、選択したプロファイル色立体/平面図が表示されます。
	不透明	選択したプロファイルの色立体/平面図が、単色の塗りつぶしで表示されます。
	フレーム	選択したプロファイルの色立体/平面図の外郭だけが表示されます。
	透明	選択したプロファイルの色立体/平面図が、透過で表示されます。
	フルカラー表示	選択したプロファイルの色立体/平面図が、各L*a*b*に対応した色で表示されます。
表示方法	3D	選択したプロファイルの領域を3Dの色立体で表示します。
	a*-b*	選択したプロファイルのL-a*b*投影図を表示します。 L*軸の+方向から-方向への投影図となり、a*b*平面の外郭が表示されます。
	L*-C*	対象プロファイルのL-C断面を表示します。
	グリッドを表示	チェックマークを付けると、表示領域上にグリッドが表示されます。
	色相角(L*-C*)	断面を表示する対象の角度を、バーを左右に動かして指定します。指定範囲は0〜360です。
	初期設定	クリックすると、初期設定の表示に戻ります。
特定色表示	L*	L*の値を入力します。入力範囲は、0〜100です。
	a*	a*の値を入力します。入力範囲は、-128〜128です。
	b*	b *の値を入力します。入力範囲は、-128〜128です。
	追加	クリックすると、入力した［L*］［a*］［b*］の値に基づき、表示領域に点がプロットされます。
	全削除	クリックすると、プロットしたすべての点が消去されます。

表示領域では、マウスを使用して以下の操作ができます。

- 回転：左クリック+上下左右へドラッグ
- 拡大/縮小：右クリック+上下へドラッグ
- 表示領域内の移動：左右クリック+上下左右へドラッグ

7. ［閉じる］をクリックします。

2.5.3　プロファイル調整

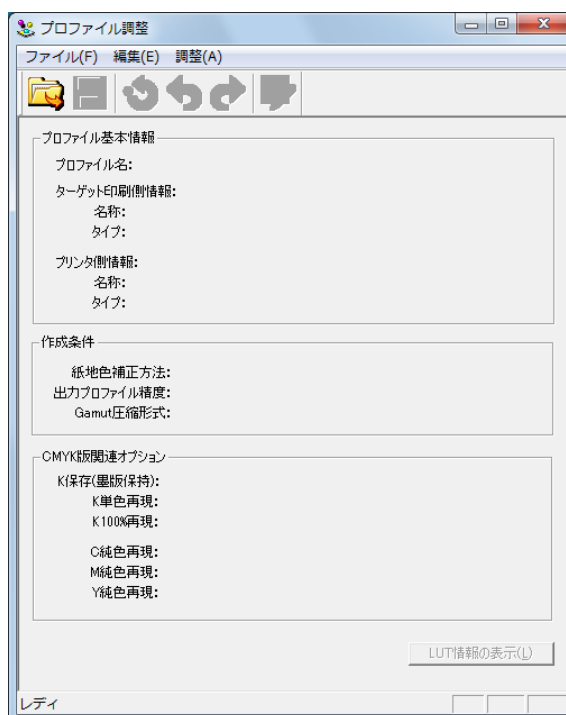
プロファイルの詳細を調整します。

操作手順

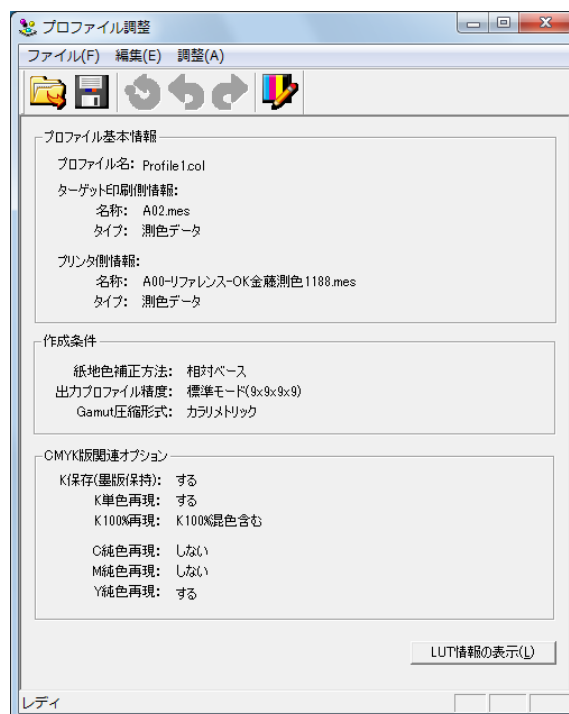
1. Windowsの［スタート］→［すべてのプログラム］→［Fuji Xerox］→［Color Profile Maker Pro］→［Color Profile Maker Pro］を選択します。

   Color Profile Maker Proが起動します。

2. ［プロファイル調整］をクリックします。

3. をクリックします。

4. 調整するCMYK色補正プロファイルを選択して［開く］をクリックします。

・［ファイル］→［開く］を選択する、またはファイルを［プロファイル調整］ウィンドウにドラッグ＆ドロップしてもファイルを開くことができます。
・V2フォーマット（Color Profile Maker Pro V9.0以降で作成したCMYK色補正プロファイル）の場合は、確認のダイアログが表示されます。
・選択するCMYK色補正プロファイルは、*.colと*.datが同じフォルダー内に保存されている必要があります。

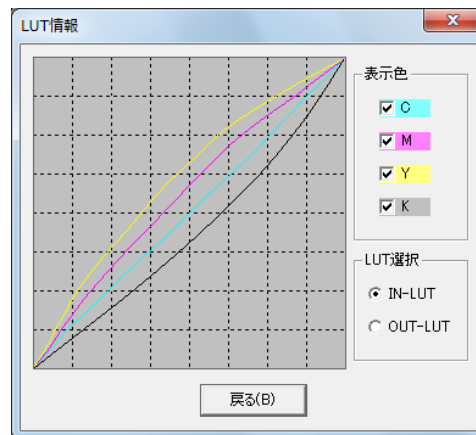
5. 必要に応じて、調整するCMYK色補正プロファイルを編集します。

詳細は、「プロファイル調整の編集」の以下の説明を参照してください。

・「LUT情報の表示」（P.45）
・「プロファイル調整の編集」（P.45）
・「グリッドを指定」（P.46）
・「純色再現保証」（P.47）

6. をクリックし、ファイルを保存します。

［ファイル］→［名前を付けて保存］を選択しても、ファイルを保存できます。

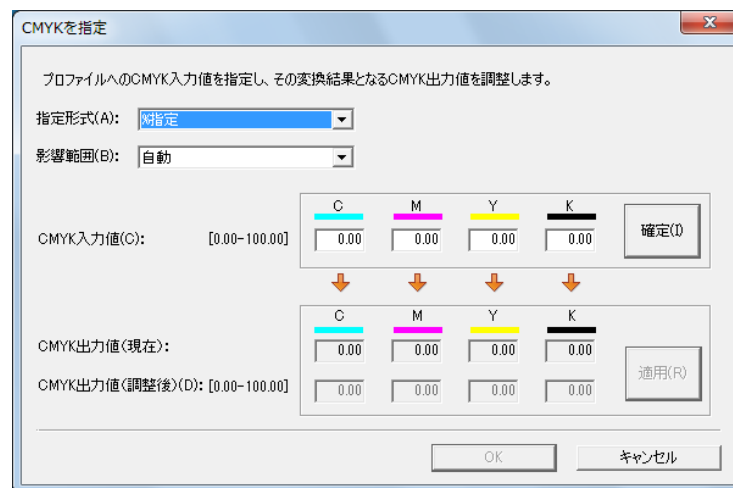
LUT情報の表示

［LUT情報の表示］をクリックします。

プロファイル内に格納されている、IN-LUT、およびOUT-LUTのカーブが表示されます。
IN-LUTを選択すると入力デバイスの階調特性カーブが、OUT-LUTを選択すると出力デバイスの階調特性カーブが表示されます。

プロファイル調整の編集

■CMYKを指定

［プロファイル調整］ウィンドウの をクリックします。

CMYK入力値、CMYK出力値を確定させて、［OK］をクリックすると、すべての設定がプロファイルに反映されます。

補足　［調整］→［CMYKを指定］を選択しても、［CMYKを指定］ウィンドウを表示できます。

●指定形式

CMYK値の入力形式を選択します。

%指定

CMYK値を%で入力します。

8bit整数指定

CMYK値を0～255の整数で入力します。

● 影響範囲

調整の影響範囲、周辺への影響のおよぼし方を選択します。

・自動
変更量に応じて、[グリッド距離1]、[グリッド距離2]、または［グリッド距離3］のいずれかが自動で選択されます。

・グリッド距離1、グリッド距離2、グリッド距離3
入力したCMYK入力値近くの、狭い領域に対して変更を適用したい場合は［グリッド距離1］を、中間の領域に対して適用したい場合は［グリッド領域2］を、広い領域に対して変更を適用したい場合は、[グリッド距離3］を選択します。

● CMYK入力値

CMYKの入力値を入力し、[確定］をクリックします。

● CMYK出力値（現在）

現在のCMYK出力値が表示されます。

● CMYK出力値（調整後）

CMYKの出力値を入力し、[適用］をクリックします。

・白に近い値を［CMYK入力値］に入力すると、調整が行われないことがあります。
・入力した値によっては、調整後の正しい変換結果を確認できないことがあります。この場合、もう一度［確定］をクリックすると、正しい調整後のプロファイルの変換結果を確認できます。

■グリッドを指定

［プロファイル調整］ウィンドウの［調整］→［グリッドを指定］を選択します。

● 指定形式

CMYK値の入力形式を選択します。

%指定

CMYK値を%で入力します。

8bit整数指定

CMYK値を0～255の整数で入力します。

● グリッドID

特定のグリッド（通常モード：0～8、高精度モード：0～16）を入力します。

● CMYK入力値

CMYKの入力値を入力し、[確定］をクリックします。

● CMYK出力値（現在）

現在のCMYK出力値が表示されます。

● CMYK出力値（調整後）

CMYKの出力値を入力し、［適用］をクリックします。

■ 純色再現保証

［プロファイル調整］ウィンドウの［調整］→［純色再現保証］を選択します。

● C純色再現/M純色再現/Y純色再現/K純色再現

CMYK各色の純色再現保証をする場合は、［する］を選択します。

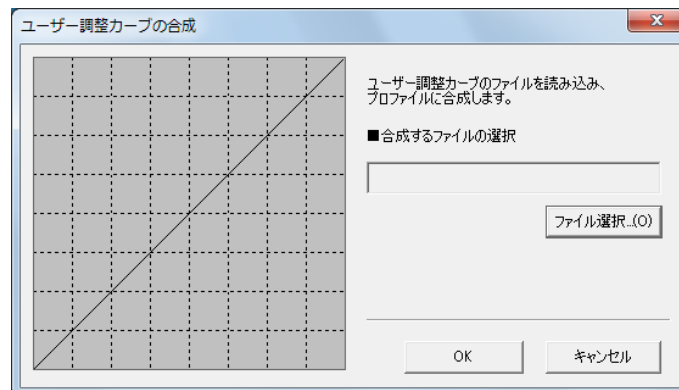
プロファイル作成時に純色再現設定で［しない］を選択したプロファイルに対して、純色再現保証が指定できます。

- 一度［する］に設定した項目は、もとに戻せません。（［しない］に指定しなおすことはできません）
- ［する］に設定すると、プロファイルによっては精度が低下する場合があります。

純色再現設定については、「純色再現設定」（P.26）を参照してください。

■ ユーザー調整カーブの合成

ユーザー調整カーブのファイルとプロファイルを合成します。

［プロファイル調整］ウィンドウの［調整］→［ユーザー調整カーブの合成］を選択します。

● 合成するファイルの選択

［ファイル選択］をクリックして、合成するファイル（.uac）を選択します。

Print Serverで作成したユーザー調整カーブは、以下のフォルダーに保存されています。

- Print Server Seriesの場合（XXXはプリンターの機種名です）
  D:¥Fuji Xerox¥Print Server Series¥cpsi¥ColorProfile¥UserAdjust¥XXX
- PX Print Server、またはPrintServer N Seriesの場合（XXXはプリンターの機種名です）
  D:¥Fuji Xerox¥Print Server PX¥cpsi¥ColorProfile¥UserAdjust¥XXX

Appendix

Color Profile Maker Pro のアンインストール手順、測色ファイルコンバーター、およびエラーメッセージについて説明しています。

3.1 Color Profile Maker Proのアンインストール

Print Serverからは、Color Profile Maker Proをアンインストールしないでください。

操作手順

1. 以下のフォルダーを開きます。

   C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥Color Profile Maker Pro

2. ［Color Profile Maker Pro］フォルダーの中身を確認し、作成したCMYKプロファイルなど、必要なファイルがあるときは、バックアップします。

   補足　Color Profile Maker Proをアンインストールすると、［Color Profile Maker Pro］フォルダー内のファイルは、すべて削除されます。

3. Windowsの［スタート］→［コントロールパネル］→［プログラムと機能］を選択します。

4. リストの中から［Color Profile Maker Pro］を選択し、［アンインストールと変更］をクリックします。

5. 確認のダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

   ［Color Profile Maker Pro］が削除されます。

6. システムを再起動します。

   Color Profile Maker Proのアンインストールは完了です。

3.2　測色ファイルコンバーター

測色ファイルコンバーターは、X-Rite社のSpectroScanとSpectroChartによって構成される自動測色システム、または X-Rite 社の i1 Pro と i1_Reader との組み合わせによる測色システムが出力する測色データファイル（XXX.it8）をColor Profile Maker Proで使用する測色データファイル（XXX.mes）に変換するユーティリティです。

SpectroScan、および SpectroChart を使用して測色する場合、「PrintServer Series 1188 Chart」をご使用ください。

複数の測色データファイルを1つの測色データファイルにまとめることができます。

用語説明

●MESファイル

Color Profile Maker Proで使用する測色データのファイル形式をMESファイルと呼びます。

●測色データファイル

ここでは、X-Rite社のSpectroScan、SpectroChartによって構成される自動測色システムが測色データを出力するファイル（XXX.it8）、またはX-Rite社のi1 Proとi1_Readerとの組み合わせによる測色システムが測色データを出力するファイル（XXX.it8）を測色データファイルと呼びます。

●パターン画像セット

Color Profile Maker Proには、Draft（256色）、Standard（1,188色）、Full（1,584色）の3種類の色票が標準で用意されています。これらの色票は複数枚で構成されているものがあり、一連の色票をパターン画像セットと呼びます。

3.2.1　使用方法

操作手順

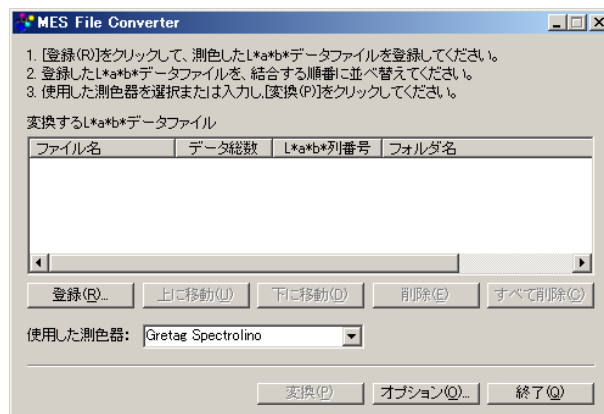
1. 「MesFileConv.exe」をダブルクリックします。

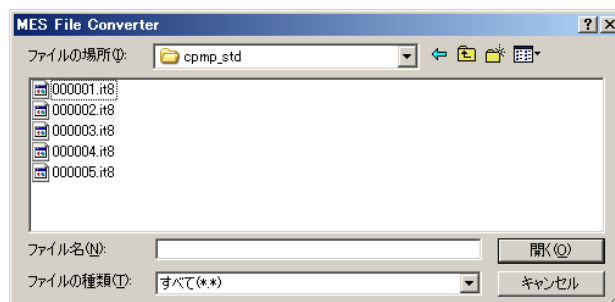
測色ファイルコンバーターが起動します。

・i1_Reader、またはSpectroChartを使用して測色した、複数のファイルに分割された測色データファイル（XXX.it8）のアイコンを「MesFileConv.exe」、またはそのショートカットのアイコンにドラッグ＆ドロップすることで、ユーティリティを起動して、測色データファイルを登録することもできます。

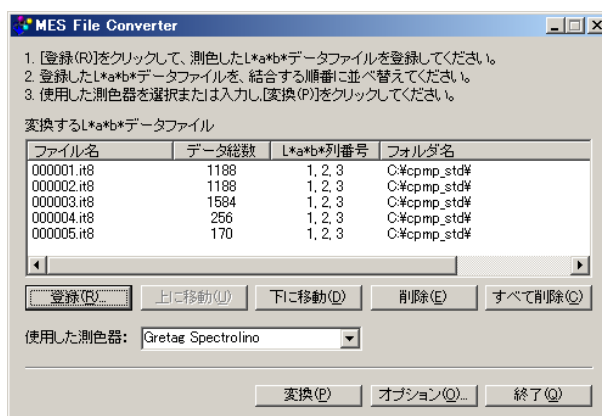
・測色データファイルを追加する必要がない場合、以下の手順2と3はスキップすることができます。

ドラッグ＆ドロップした測色データファイルに問題がある場合は、手順3の確認のダイアログボックスが表示されます。

2. ［登録］をクリックします。

- ［登録］をクリックせずに、エクスプローラーなどから目的の測色データファイルのアイコンをメインウィンドウ内にドラッグ＆ドロップすることで登録することもできます。
- タイトルバー左のアイコンをクリックするとポップアップメニューが表示されます。このメニューの最下段に［バージョン情報］という項目があり、これを選択すると、［MES File Converterのバージョン情報］ダイアログボックスが表示されます。

3. MESファイルに変換する測色データファイルを選択し、［開く］をクリックします。

メインウィンドウの測色データファイルリストに、選択した測色データファイルが登録されます。

- 複数のファイルを選択できます。複数の測色データファイルを登録すると、自動的にファイル名で昇順にソートされて登録されます。
- L*a*b*データを含まないような測色データファイルを選択した場合は、確認のダイアログボックスが表示されますので、［OK］をクリックします。（ファイルは登録されません）

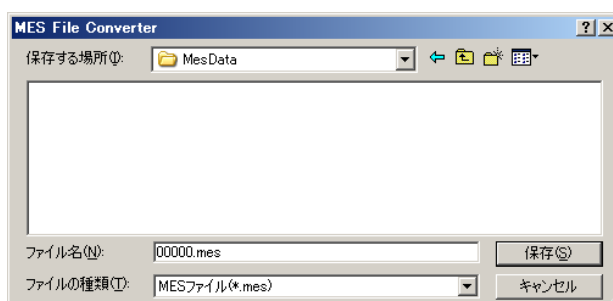
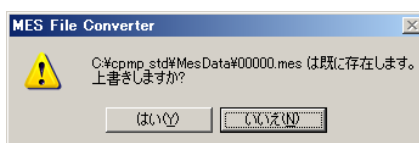
4. ［使用した測色器］で、登録したデータファイルを作成するために使用した測色器を選択、または入力します。

補足　誤った測色データファイルを登録した場合は、ファイルを選択して［削除］をクリックします。また、［すべて削除］をクリックすると、登録したすべての測色データファイルを削除できます。

5. 測色データファイルリストに登録されている測色データファイルの並び順がColor Profile Maker Proのパターン画像セットの順番になっていない場合は、順番を変更するファイル名の部分をクリックし、［上に移動］、または［下に移動］をクリックして、所定の順番になるように変更します。

補足　複数の測色データファイルをまとめて登録すると、自動的にファイル名で昇順にソートされて測色データファイルリストに登録されます。したがって、測色データファイルの名前を付ける際に、パターン画像セットのシート番号順に、data01.it8, data02.it8, data03.it8 などのようにすると、並べ替える必要がなくなり便利です。

6. 測色データファイルが所定の順番に並んでいること、測色データファイルを作成した測色器の名前が正しく設定されていることを確認したら、［変換］をクリックします。

7. 登録したデータファイルに含まれるL*a*b*データの総数がColor Profile Maker Proのサポートするパッチ数と一致しない場合は、以下のダイアログボックスが表示されます。続行する場合は［はい］を、メインウィンドウに戻る場合は［いいえ］をクリックします。

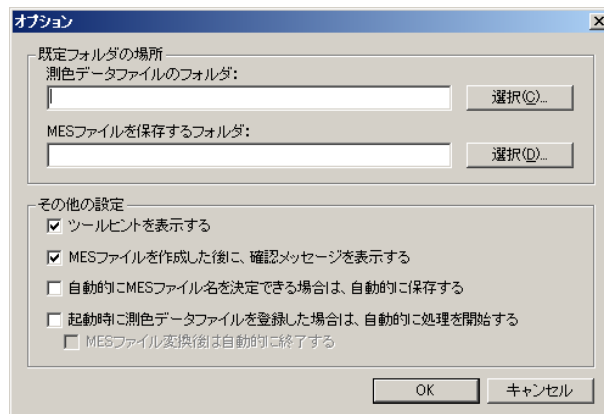
8. 保存するファイル名を入力し、［保存］をクリックします。

9. すでに同じ名前のファイルが存在する場合は、以下のダイアログボックスが表示されますので、上書きする場合は［はい］を、ファイル名を入力し直す場合は［いいえ］をクリックします。

10. ［OK］をクリックします。

メインウィンドウに戻り、登録した測色データファイルは測色データファイルリストから削除されます。さらに変換処理を行う場合は、手順2から処理を繰り返してください。

11. 読み取り専用のファイルに上書きしようとしたり、ディスクの容量が不足した場合は、以下のダイアログボックスが表示されて、変換が正常に行われなかったことを示します。［OK］をクリックします。

登録したデータファイルはそのままの状態で、メインウィンドウに戻ります。

3.2.2　オプション設定

メインウィンドウの［オプション］をクリックすると、以下のオプション設定のダイアログボックスが表示され、いろいろな設定を行うことができます。

● 測色データファイルのフォルダ

ここで選択したフォルダーが、メインウィンドウの［登録］をクリックしたときに表示される測色データファイルを選択するダイアログボックスのデフォルトフォルダーになります。

選択しなかった場合や、選択したフォルダが存在しなかった場合は、「MesFileConv.exe」が存在するフォルダーが、デフォルトフォルダーになります。

● MESファイルを保存するフォルダ

ここで選択したフォルダーが、メインウィンドウの［変換］をクリックしたときに表示される MES ファイルの保存先を選択するダイアログボックスのデフォルトフォルダーになります。また、以下のオプションで保存先を指定させない設定にしている場合は、ここで選択されたフォルダーに変換した MES ファイルが保存されます。

選択しなかった場合や、選択したフォルダーが存在しない場合は、登録した最初の測色データファイルが存在するフォルダーが、デフォルトフォルダーになります。

● ツールヒントを表示する

チェックマークを付けると、メインウィンドウ内のボタンなどにカーソルを一定時間以上置いたままにしておくと、そのボタンなどの機能の説明がポップアップして表示されます。

● MESファイルを作成した後に、確認メッセージを表示する

チェックマークを付けると、変換処理終了後に完了確認のダイアログボックスが表示されます。

● 自動的にMESファイル名を決定できる場合は、自動的に保存する

チェックマークを付けると、変換時に、登録した測色データファイルから共通する部分を抜き出してファイル名を生成し、自動的に保存されます。MESファイルの保存先を選択するダイアログボックスは表示されません。

ただし、共通部分が抽出できない場合や、生成したファイル名がすでに存在している場合は、保存先を選択するダイアログボックスが表示されます。

● 起動時に測色データファイルを登録した場合は、自動的に処理を開始する

チェックマークを付けると、「MesFileConv.exe」のアイコンに登録する測色データファイルをドラッグ＆ドロップすると、ドラッグ＆ドロップしたデータファイルをファイル名で昇順に並び替えて、前回選択した測色器を使用測色器として、メインウィンドウが表示されることなく変換処理が開始されます。

● MESファイル変換後は自動的に終了する

［起動時に測色データファイルを登録した場合は、自動的に処理を開始する］にチェックマークが付いている場合だけ、設定できます。チェックマークを付けると、変換処理が終了したあとでユーティリティが終了します。

3.3 エラーメッセージ一覧

操作上の誤りなどを知らせるメッセージが表示されたときは、以下の表に従って対応してください。

<table>
<tr><th>メッセージ</th><th>原因</th><th>対処</th></tr>
<tr><td>メモリー不足のため、処理を中止しました。</td><td>メモリーが不足しています。</td><td>すべてのアプリケーションを終了し、システムを再起動後、もう一度処理を実行してください。</td></tr>
<tr><td>以下のファイルの読み込みに失敗しました。</td><td>ほかのアプリケーションによって、ファイルがロックされている可能性があります。</td><td>メモ帳やワードパッドなどでファイルが開くことを確認し、もう一度読み込んでください。このとき、ファイルを編集しないように注意してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">以下のファイルへの書き込みに失敗しました。</td><td>ディスク容量不足</td><td>不要なファイルを削除して、ディスク容量を確保してください。</td></tr>
<tr><td>ファイルに書き込み禁止が設定されている</td><td>書き込み禁止を解除するか、別のファイル名で書き込んでください。</td></tr>
<tr><td>印刷の測色データがパッチ数と一致していないため、処理を取りやめました。

プリンターの測色データがパッチ数と一致していないため、処理を取りやめました。</td><td>・測色データと測色パターンデータファイルの数の不一致
・測色データの数がDraft（256色）、Standard（1,188色）、Full（1,584色）の、どれでもない</td><td>選択した測色パターンデータファイルを測色したものが、設定した測色データと一致するように、各パターン画像セットを設定し直してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">印刷の測色データのシアン･マゼンタ･イエロー 100% の色相か、白、または黒100% の明度が適正範囲を超えています。このまま処理を続けますか？

プリントの測色データのシアン・マゼンタ･イエロー 100% の色相か、白、または黒100%の明度が適正範囲を超えています。このまま処理を続けますか？</td><td>色相の異常には、以下の原因が考えられます。
・測色値の誤り
・通常の色相と大きく異なるインキの使用
・着色紙の使用</td><td rowspan="2">測色値が誤っている、または測色方法が不適当な場合は、測色データを新規に作成し直してください。

補足　Color Profile Maker Proは、一般的な印刷用紙とプロセスインキによる印刷条件を想定しています。着色紙や特色インキを使用すると、正確に再現できない場合があります。

参照　測色を正確に行うための測色方法やポジショニングについては、ご使用の測色器の取扱説明書を参照してください。</td></tr>
<tr><td>明度の異常には、以下の原因が考えられます。
・測色値の誤り
・黒色の台紙の上での、薄い用紙にプリントされたパターン画像の測色
・着色紙など、通常の用紙に比べて明度の低い用紙の使用
・著しいカブリの発生
・黒100%の明度が著しく高い</td></tr>
<tr><td rowspan="2">印刷の測色データに多少のバラツキがある可能性があります。このまま処理を続けますか？

プリントの測色データに多少のバラツキがある可能性があります。このまま処理を続けますか？</td><td>プリントしたパターン画像セットの紙面全体、または紙面間の濃度ムラ</td><td>パターン画像セットを再プリントして、測色データを作成し直してください。</td></tr>
<tr><td>・色パッチの中央部を測色していない、または色パッチに測色器を適切に押し当てていないなど、測色の不具合
・測色器のキャリブレーションが不適切、または測色器の故障
・測色順序の誤り</td><td>適切な操作を確認し、測色データを修正、または作成し直してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">印刷の測色データにかなりのバラツキがある可能性があります。このまま処理を続けますか？

プリントの測色データにかなりのバラツキがある可能性があります。このまま処理を続けますか？</td><td>プリントしたパターン画像セットの紙面全体、または紙面間の濃度ムラ</td><td>パターン画像セットを再プリントして、測色データを作成し直してください。</td></tr>
<tr><td>・色パッチの中央部を測色していない、または色パッチに測色器を適切に押し当てていないなど、測色の不具合
・測色器のキャリブレーションが不適切、または測色器の故障
・測色順序の誤り</td><td>適切な操作を確認し、測色データを修正、または作成し直してください。</td></tr>
</table>

メッセージ	原因	対処
続行不可能なエラーが発生したため、処理を中止しました。 プリンタ側の予測ができませんでした。	パターン画像をプリント時に設定や測色の誤りがあるなどの理由で、測色値の不整合が発生している可能性があります。	プリント時の設定を確認して、再度、プリントしたパターン画像を測色してください。
以下のICCプロファイルに問題が検出されたため、処理を取りやめました。	ICCプロファイルがCMYK以外か、または壊れている可能性があります。	ICCプロファイルがCMYKに対応していること、ICCプロファイルがPhotoshopなどのアプリケーションで正常に使用できることを確認してください。

Index

記号・英数

あ

い

え

お

か

く

こ

さ

し

そ

た

ち

つ

て

と

は

ふ

へ

ゆ

保守・操作のお問い合わせは

この商品の保守・操作のお問い合わせは、テレフォンセンター、または販売店にご連絡ください。

- テレフォンセンターの電話番号は、プリンター本体に貼付のカードやシールに書かれています。
- ご連絡の際は、カードやシールに書かれている「機種名」、および「機械番号」をお知らせください。

富士ゼロックスに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル　0120-27-4100

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 時〜 12 時、13 時〜 17 時
フリーダイヤルは、携帯電話・PHS および海外からはご利用いただけません。また、一部の IP 電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

ホームページアドレス：http://www.fujixerox.co.jp
●商品全般に関する情報、最新ソフトウエアなどを提供しています。

Color Profile Maker Pro 操作説明書

著作者　　ー 富士ゼロックス株式会社
発行者　　ー 富士ゼロックス株式会社

発行年月ー2011年7月　第1版
ME5445J1-1